



J

フロントサラウンドシステム

YAS-306

取扱説明書

musicCast

ご使用前に本書の「安全上のご注意」(42～44 ページ)を必ずお読みください。

ヤマハ製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

■製品を正しく安全にお使いいただくために、ご使用前に本書をよくお読みください。お読みになったあとは、保証書と共にいつでも見られるところに大切に保管してください。

■保証書に「購入日、販売店名」が正しく記入されていることを必ずご確認ください。

保証書別添付

JA

標準

操作

ネットワーク

設定

録付

安全上のご注意

目次

準 備

付属品を確認する	3
本製品でできること	4
よくあるご質問	5
本機の各部名称	6
設置する	8
本機を接続する	10
テレビと接続する	10
その他の機器と接続する	11

操 作

操作する	12
Bluetooth 機器の音楽を聴く	16
ワイヤレスヘッドホンで聴く	17

ネットワーク

ネットワークを活用する	18
ネットワーク機能と MusicCast CONTROLLER アプリについて	18
ネットワークに接続する	18
パソコン（サーバー）の音楽ファイルを聴く	22
インターネットラジオを聴く	23
radiko.jp を聴く	24
AirPlay で音楽を聴く	24
モバイル端末の音楽を聴く	26

設 定

設定する	27
テレビのリモコンで本機の音量などを調節する （テレビリモコン学習機能）	27
外部サブウーファーを使用する	30
自動スタンバイ機能の有効 / 無効を設定する	30
ネットワークスタンバイ機能の有効 / 無効を設定する	31
無線（Wi-Fi）接続の有効 / 無効を設定する	31
Bluetooth 機能の有効 / 無効を設定する	32
本機のファームウェアを更新する	32
初期設定に戻す	33

付 録

困ったときは	34
主な仕様	39
安全上のご注意	42

本書の記載について

ポイント

使用時の注意点や機能の制約が記載されています。

ヒント

知っておくと便利な補足情報が記載されています。

付属品を確認する

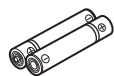
すべて揃っていることを確かめください。



□ 本機



□ リモコン



□ 単4乾電池 (2本)



□ 光デジタルケーブル (1.5m)



□ 取付用テンプレート
本機を壁に設置する際に使用します。



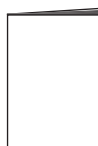
□ カバー (リピーター用)



□ スペーサー (2個)
本機を壁に設置する際に使用します。



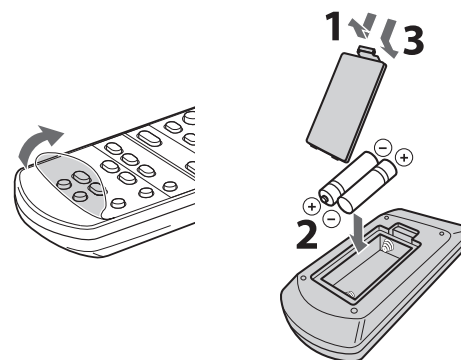
□ 取扱説明書
(本書)



□ MusicCast
セットアップガイド

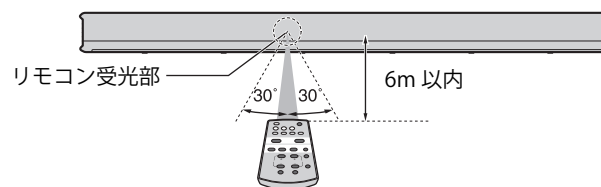
◆ リモコンの準備

保護シートは、はがしてお使いください。



◆ リモコンの操作範囲

以下の範囲内で操作してください。本機を壁に取り付けた場合は、本機上面のリモコン受光部に向けて操作してください (9 ページ)。



本製品でできること

本製品は簡単な設置、接続で迫力のサウンドをお楽しみいただけるサブウーファー内蔵のフロントサラウンドシステムです。

●AIR SURROUND XTREME (エア・サラウンド・エクストリーム)

前方だけでなく左右や後方にもスピーカーを設置しているかのような、広がりや定位感に優れた 7.1ch サラウンド再生をお楽しみいただけます。

●バスエクステンション

ヤマハ独自の低音増強技術「Advanced Bass Extension Processing」により、迫力のある音を再現します（14 ページ）。

●MusicCast CONTROLLER でネットワーク上の音楽を自在に再生

モバイル端末専用の無料アプリ「MusicCast CONTROLLER」で、スマートフォンなどのモバイル端末*やサーバーの音楽、インターネットラジオなどを本機で楽しむことができます（18 ページ）。また、ホームネットワークに接続された他の MusicCast 機器に配信し、同時に再生できます。

MusicCast CONTROLLER アプリのビジュアルな画面では、入力ソースの選択や音量の調節などができます。

詳しくは、付属の「MusicCast セットアップガイド」や弊社ウェブサイトをご覧ください。

アプリについては、Apple Store または Google Play で「MusicCast CONTROLLER」を検索してください。

●テレビリモコン学習機能

テレビのリモコンを使って、本機の電源や音量を操作できます（27 ページ）。

●クリアボイス

人の声（セリフやアナウンスなど）を聞き取りやすくできます（14 ページ）。

* 本書では iOS および Android が搭載された携帯端末を総称して「モバイル端末」と表記しています。必要な場合は、説明文中で携帯端末の種類を特定しています。

よくあるご質問

本機をよく使われる機能や、よくあるご質問について説明します。

Q1 テレビのリモコンで本機を操作することはできますか。テレビのリモコンと本機のリモコンを持ち替えるのは不便です。

A1 はい。「テレビリモコン学習機能」を使えば、お使いのテレビのリモコンで本機も操作することができます（27 ページ）。

本機能は、赤外線方式のリモコンのみに対応しています。テレビのリモコン方式をお確かめの上、お使いください。

Q2 テレビの話し声を聞き取りやすくできますか。

A2 はい。「クリアボイス機能」を使うと、映画やドラマのセリフ、ニュースやスポーツ中継のアナウンスなど、人の声が聞き取りやすくなります（14 ページ）。


Q3 スマートフォンで本機を操作することはできますか。

A3 はい。スマートフォンなどのモバイル端末専用の無料アプリ「MusicCast CONTROLLER」を使うと、スマートフォンで本機を操作できます（18 ページ）。
本機の電源のオン/オフ、入力選択や音量調節などが可能です。

Q4 ヘッドホンは使えますか？

A4 はい。Bluetooth 対応のワイヤレスヘッドホンが使えます（17 ページ）。

Q5 本機で再生中の音声を別のオーディオ機器で同時に鳴らしたり、別のオーディオ機器で再生中の音声を本機で同時に鳴らしたりできますか？

A5 はい。MusicCast 対応機器どうしなら、互いの音声を配信して同時に楽しみいただけます。
MusicCast CONTROLLER アプリのルーム画面で、 をタップし、画面に従ってマスター（配信元となる機器）とリンクする部屋（配信先の機器）を設定してください。詳しくは、付属の MusicCast セットアップガイドや弊社ウェブサイトをご覧ください。

Q6 スマートフォンの音楽は、どんな方法で再生できますか？

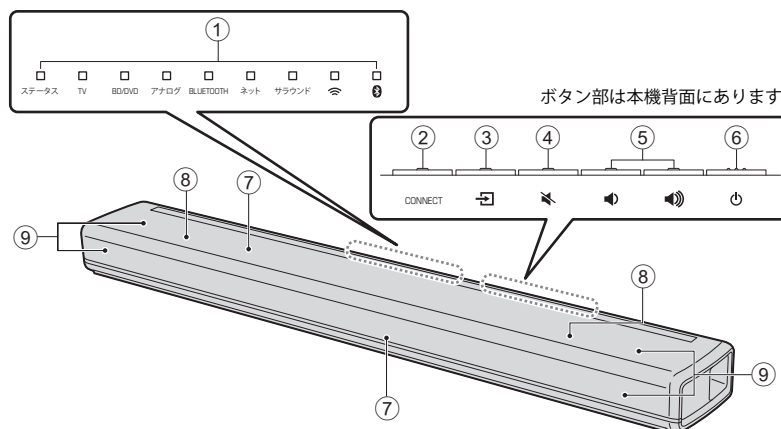
A6 以下の方法からお選びください。
Bluetooth で接続する（16 ページ）
ネットワークを使わずにスマートフォンなどのモバイル端末の音楽を再生したい場合におすすめします。
AirPlay を使う（24 ページ）
iPhone などの iOS デバイスユーザーにおすすめします。
MusicCast CONTROLLER アプリで再生する（26 ページ）
MusicCast CONTROLLER アプリをインストールしたスマートフォンなどのモバイル端末の音楽を再生する場合におすすめします。

Q7 ラジオは聴けますか？

A7 はい。MusicCast CONTROLLER アプリの radiko.jp をご利用ください（24 ページ）。

本機の各部名称

◆ 本機前面 / 上面



① ランプ

本機上面のランプが点滅 / 点灯することで、操作や設定状況を示します。

本書では、必要に応じてランプ9個が並んだイラストを使って説明しています。

□ : 消灯 ■ : 点灯 ☀ : 点滅

例：ステータスランプが点灯し、☀ ランプが点滅する場合

■ □ □ □ □ □ □ ☀ □

② CONNECT (コネクト) ボタン

MusicCast CONTROLLER アプリを使って、本機をネットワークに接続するときに使います (19 ページ)。

③ ㊚ (入力切換) ボタン

再生する音声ソース (機器) を選びます (12 ページ)。

④ ㊚ (消音) ボタン

消音します。もう一度押すと消音を解除します (13 ページ)。

⑤ ㊚ / ㊚ (音量+ / -) ボタン

音量を調節します (13 ページ)。

⑥ ㊚ (電源) ボタン

本機の電源をオン / オフします (12 ページ)。

ヒント

- ・ 自動スタンバイ機能を有効にすると、自動的に電源をオフにできます (30 ページ)。

⑦ リモコン受光部

本機のリモコンの赤外線信号を受信します (3 ページ)。テレビのリモコンの赤外線信号も受信します (8 ページ)。

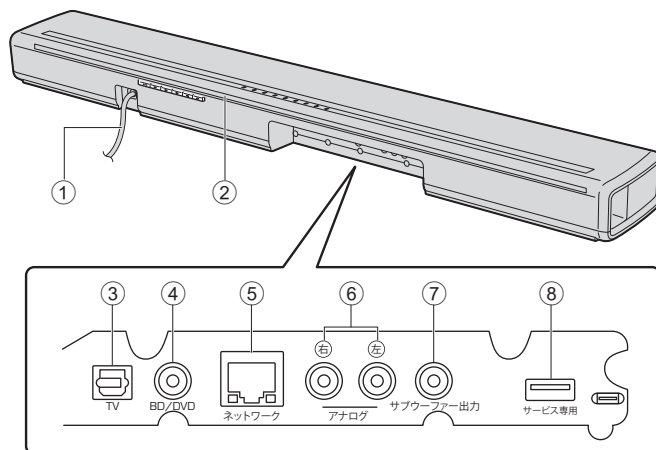
リモコン受光部は本機の前面および上面にあります (8、9 ページ)。

⑧ 内蔵サブウーファー

サブウーファーは本機の上面に内蔵されています。

⑨ スピーカー

◆ 本機背面



① 電源コード

電源コードのプラグをコンセントに接続します (10 ページ)。

② テレビリモコンリピーター

リモコン受光部で受信したリモコン信号をテレビに送信します (8 ページ)。

③ TV 入力端子

光デジタルケーブルを使ってテレビを接続します (10 ページ)。

④ BD/DVD 入力端子

同軸デジタルケーブルを使って、ブルーレイディスクレコーダー (以下、BD レコーダー) などの再生機器を接続します (11 ページ)。

⑤ ネットワーク端子

本機をネットワークに接続します (18 ページ)。

⑥ アナログ入力端子

ステレオピンケーブルを使って外部機器を接続します (10、11 ページ)。

⑦ サブウーファー出力端子

ピンケーブルを使って外部サブウーファーを接続します (30 ページ)。

⑧ サービス専用端子

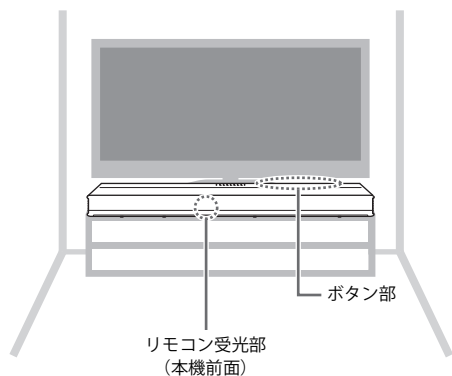
サービス用の端子です。通常は使用しません。

設置する

本機をテレビ台などの上に設置します。壁に取り付けることもできます（9 ページ）。
テレビ台に設置した場合と、壁に設置した場合それぞれに合わせて、リモコン受光部が装備されています。

◆ テレビ台などに設置する場合

本機のボタン部が奥になるように、本機をテレビ台の上などに置きます。



ご注意

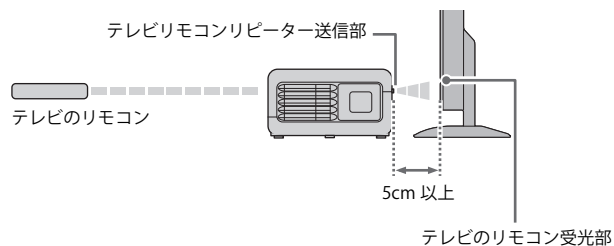
- 本機と BD レコーダーなどを直接重ねないでください。振動により機器が故障することがあります。
- 本機前面および上面のスピーカー部（布の部分）には手をかけないでください。
- 本機は非防磁のスピーカーを搭載しています。故障の原因となりますので、ハードディスクドライブなど磁気に弱いものを本機の近くに設置しないでください。
- 本機を設置する場所によっては、設置した後のケーブルの接続が難しい場合があります。その場合は設置する前に、ケーブルを接続してください。

テレビリモコンリピーターについて

本機は、前面のリモコン受光部で受信したテレビのリモコン信号を、背面のテレビリモコンリピーターから送信します。

ご注意

リモコン信号をテレビのリモコン受光部に確実に伝えるため、本機とテレビは 5cm 以上離して設置してください。



ヒント

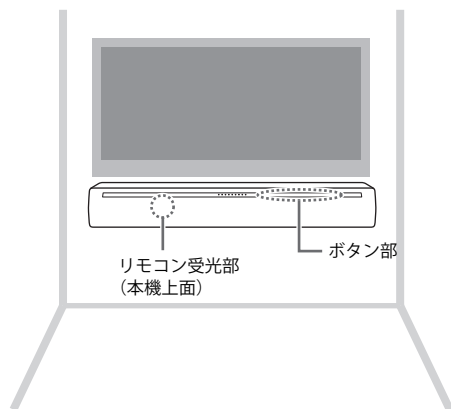
- この機能は、テレビのリモコンが赤外線信号を使用している場合のみ利用できます。
- 本機の電源がオフになっていても、電源プラグがコンセントに接続されていれば、テレビのリモコン操作が可能です。

◆ 壁に取り付ける場合

ご注意

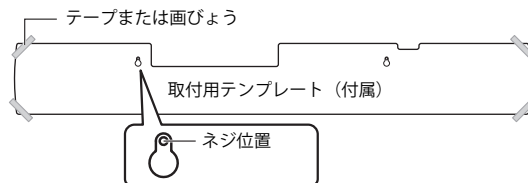
- 取付工事は専門業者、または販売店に依頼してください。お客様自身で作業しないでください。設置方法を間違えると、本機が落下し、けがの原因になります。
- しっくいやベニヤ板のような弱い材質の壁には設置しないでください。本機が落下する原因になります。
- 市販のネジは、規定サイズ（右記手順2参照）で十分な強度があるものをご用意ください。くぎや両面テープ、規定サイズ以外のネジを使用すると本機が落下する原因になります。
- ケーブル類は必ず固定してください。誤って手や足に引っ掛かると、本機が落下する原因になります。
- 本機にもたれかかったり、上から強い力をかけたりしないでください。落下の原因となります。
- 設置後、本機がしっかりと固定されていることを確認してください。誤った設置により起きた事故について、弊社は責任を負いかねますのでご了承ください。

本機のボタン部が上に向くように壁に取り付ます。

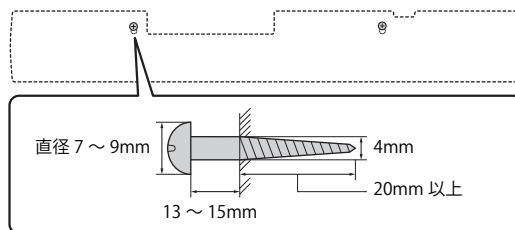


壁への取り付け手順

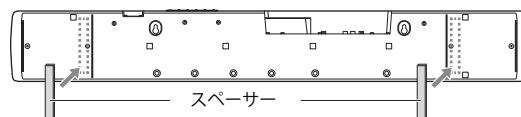
- 1 取付用テンプレートを壁に仮付けし、ネジ位置の印をつける。



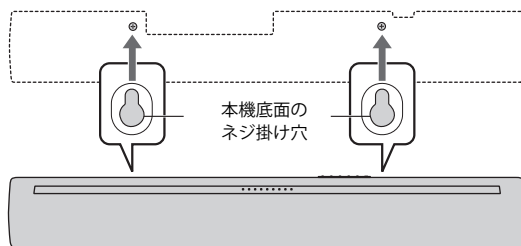
- 2 取付用テンプレートを壁から取り外し、壁（印の位置）に下図のような市販のネジを取り付ける。



- 3 スペースのはく離紙をはがし、粘着部を本機底面に貼る。

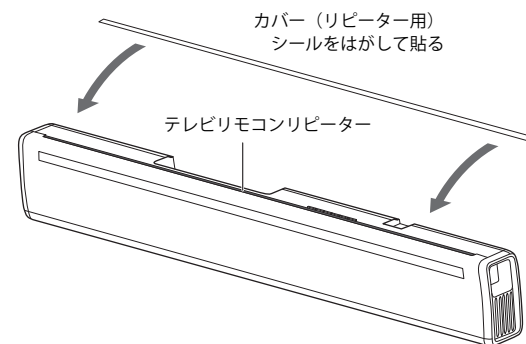


- 4 本機をネジに掛けて設置する。



付属のカバー（リピーター用）の使い方

本機を壁に設置すると、テレビリモコンリピーター部分が白く目に入ることがあります。視聴の妨げになる場合は、付属のカバー（リピーター用）をテレビリモコンリピーターに貼ってください。



本機を接続する

本機の接続方法は、お使いのテレビや再生機器（BD レコーダーなど）の端子や接続状態によって異なります。10 ～ 11 ページの接続例を参考にして、本機を接続してください。

- 1 本機の電源コードをコンセントから外しているか確認する。
- 2 10 ～ 11 ページの接続例を参考にして、本機とテレビや再生機器を接続する。

光ファイバーケーブル（付属）を使う場合は、キャップを取り、向きを確認して奥までしっかり差し込みます。



ヒント

- ・ 光デジタルケーブル（付属）は TV 端子に、同軸デジタルケーブルは BD/DVD 端子に、ステレオピンケーブルはアナログ端子に接続してください。

- 3 本機の電源コードをコンセントに接続する。
- 4 テレビの音量を最小にする、またはテレビ内蔵スピーカーの音声出力を無効にする。

ご注意

ケーブルのプラグを端子に差し込むときに、強い衝撃を与えないようにしてください。破損の原因になります。

ヒント

- ・ 手順 4 でテレビの内蔵スピーカーの音量設定がない場合は、ヘッドホン/イヤホン端子にヘッドホンや変換プラグなどを接続することで、内蔵スピーカーの音声出力をオフできる場合があります。詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。
- ・ TV、BD/DVD 端子は以下の音声信号に対応しています。
 - PCM (2ch)
 - Dolby Digital (5.1ch まで)
 - DTS Digital Surround (5.1ch まで)
 - AAC (5.1ch まで)

テレビと接続する

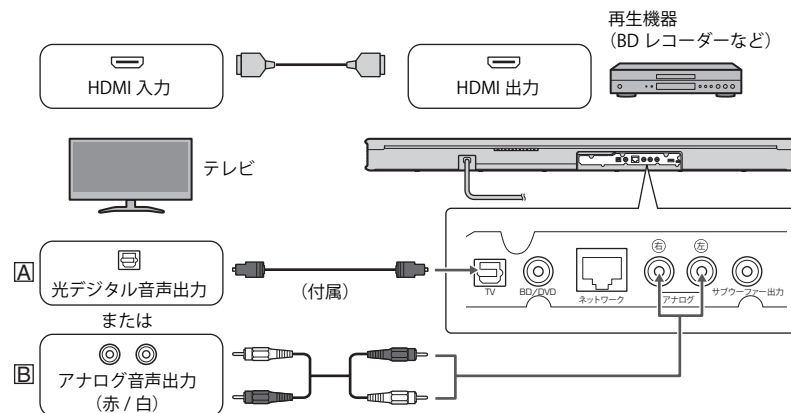
◆ 接続方法 1：本機とテレビを接続する

㊦ テレビに光デジタル音声出力端子がある場合



本機の TV 端子とテレビの光デジタル音声出力端子を光デジタルケーブル（付属）で接続します。

㊧ テレビに光デジタル音声出力端子がない場合

本機のアナログ端子とテレビのアナログ音声出力端子をステレオピンケーブル（別売）で接続します。



テレビや再生機器を視聴するとき

テレビの入力切換	テレビを見るとき	テレビを見る時の入力に切り替える。(本機とテレビを接続したあとでも、今まで通りの入力を選んでください。)
	再生機器を視聴するとき	再生機器 (BD レコーダーなど) を視聴するときの入力に切り替える。
本機の音声ソースの選択	本機のリモコンの入力ボタンを押して切り替える。	
	Aの場合:  Bの場合: 	
	ポイント <ul style="list-style-type: none">・ テレビの音声デジタルフォーマット (Dolby Digital、DTS Digital Surround、AAC) で出力されない場合は、テレビの音声出力設定が PCM (2ch) になっていないか確認してください。	

◆ 接続方法 2：本機と再生機器（BD レコーダーなど）を接続する

本機とテレビを「接続方法 1」のように接続できない場合は（テレビに光デジタル音声出力端子も音声アナログ出力端子もない場合）、本機と再生機器をこの方法で接続してください。

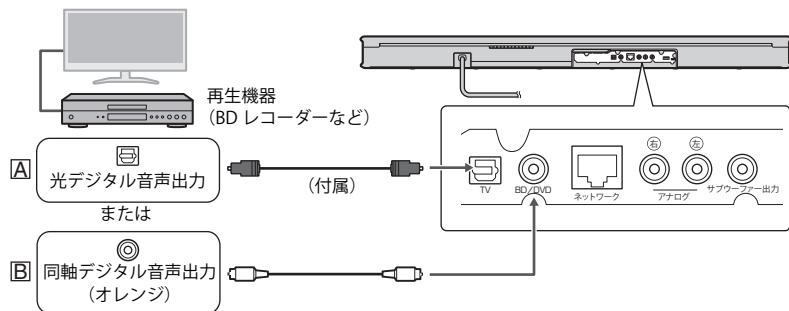
また、テレビと再生機器（BD レコーダーなど）を接続していて、それらの音声サラウンド出力されないときは、本機とテレビを接続した上で、本機と再生機器をこの方法で接続してください。

A 再生機器に光デジタル音声出力端子がある場合

本機の TV 端子と再生機器の光デジタル音声出力端子を光デジタルケーブル（付属）で接続します。

B 再生機器に光デジタル音声出力端子がない場合

本機の BD/DVD 端子と再生機器の同軸デジタル音声出力端子を同軸デジタルケーブル（別売）で接続します。



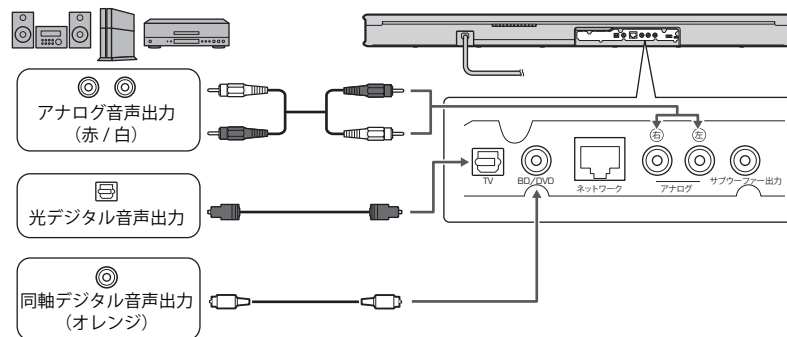
テレビに接続した再生機器の映像を見るとき

テレビの入力切換	テレビに接続した再生機器（BD レコーダーなど）を視聴するときの入力に切り替える。
本機の音声ソースの選択	本機のリモコンの入力ボタンを押して切り替える。 A の場合： B の場合：

その他の機器と接続する

CD/DVD プレーヤーやゲーム機器などを本機に接続して迫力ある音を楽しむこともできます。それぞれの機器の音声出力端子と本機の入力端子を、光デジタルケーブル、同軸デジタルケーブル、ステレオピンケーブルのいずれかで接続してください。

CD/DVD プレーヤー、ゲーム機器など



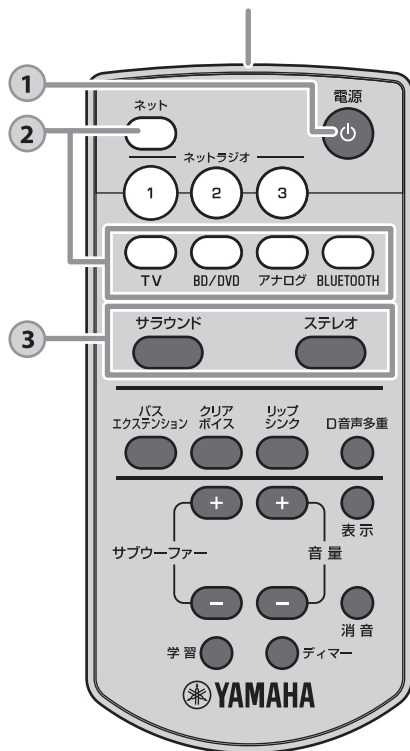
外部機器の映像を見るとき

テレビの入力切換	外部機器を視聴するときの入力に切り替える
本機の音声ソースの選択	<p>音声を聞くとときは、接続した端子に合わせて本機のリモコンの入力ボタン（アナログボタン、TV ボタン、または BD/DVD ボタン）を押してください。</p> <p> </p> <p>ポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部機器の音声デジタルフォーマット（Dolby Digital、DTS Digital Surround、AAC）で出力されない場合は、外部機器の音声出力設定が PCM（2ch）になっていないか確認してください。 本機のアナログ端子に接続した機器側で音量調節ができる場合は、予想以上の大音量になるのを避けるため、本機の TV 端子や BD/DVD 端子に接続した機器と同程度の音量になるように調節してください。

操作する

リモコン信号送信部

赤外線信号を送信します。

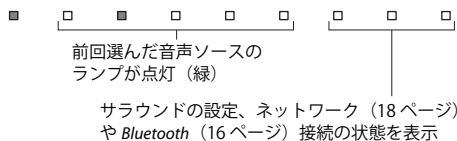


1

電源 (⏻) ボタン

本機の電源をオン/オフします。

電源オン



電源オフ (ネットワークスタンバイ有効: 31 ページ)



電源オフ



ヒント

- ご購入後はじめて本機の電源をオンにすると、 ランプがゆっくり点滅します。



ランプの点滅中に、お使いの iOS デバイス (iPhone など) のネットワーク設定を本機に適用して無線ネットワークに接続できます。設定方法については「AirPlay で音楽を聴く」をご覧ください (24 ページ)。この機能を使わない場合は、リモコンのいずれかのキーを押してください。この機能はキャンセルされます。

本機のネットワーク端子とルーターをケーブルで接続している場合 (有線ネットワーク接続)、 ランプは点滅しません。

2

入力ボタン

再生する音声ソース (機器) を選びます。

- TV ボタン** テレビ、または TV 端子に接続した機器の音声
BD/DVD ボタン BD / DVD 端子に接続した機器の音声
アナログボタン アナログ端子に接続した機器の音声
BLUETOOTH ボタン Bluetooth 機器の音声
ネットボタン ネットボタンを押すと、前回聴いていた音声ソースを入力します。

選んだ音声ソースのランプが点灯します。

(例: TV 選択時)



ヒント

- テレビに接続した再生機器の音声や映像を視聴する場合は、テレビ側の入力切替で再生機器を選んでください。
- Bluetooth 機器の再生については 16 ページ、ネットワーク経由の音声の再生については 22 ~ 26 ページをご覧ください。

3

サラウンドボタン / ステレオボタン

サラウンド再生、ステレオ再生 (2ch ステレオ) を切り替えます。

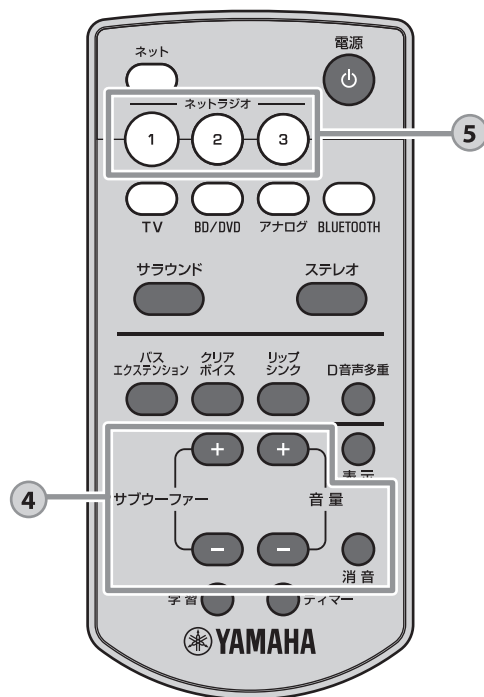
サラウンド再生を選ぶと、ヤマハ音場創生技術 AIR SURROUND XTREME (エア・サラウンド・エクストリーム) により、臨場感のある音響効果を楽しむことができます。

サラウンドボタン 点灯 (サラウンド再生)

ステレオボタン 消灯 (ステレオ再生)

ヒント

- 2ch ステレオ信号をサラウンドで再生しているときは、ドルビープロロジック II を使用します。
- モバイル端末にインストールした MusicCast CONTROLLER (19 ページ) を使うと、サラウンドモード (TV 番組 / 映画 / 音楽 / スポーツ / ゲーム) を選択することができます。



4

サブウーファー (+ / -) ボタン

サブウーファーの音量を調節します。

□ □ □ □ ■ □ □ □ □

音量が下がる (-) ← → 音量が上がる (+)

音量 (+ / -) ボタン

本機の音量を調節します。

☀ ☀ ☀ ☀ ☀ □ □ □ □

音量が下がる (-) ← → 音量が上がる (+)

消音ボタン

消音します。もう一度押すと消音を解除します。

□ ☀ ☀ ☀ ☀ ☀ ☀ ☀ □

点滅 (消音中)

5

ネットラジオ (1 ~ 3) ボタン

ネットワーク経由の音声を (インターネットラジオ局やサーバーの音楽ファイルなど)、ネットラジオボタンに登録します。

登録する

- 1 登録したいラジオ局などを再生する (22 ~ 26 ページ)。
- 2 ネットラジオ 1、2、または 3 ボタンを 3 秒以上押す。

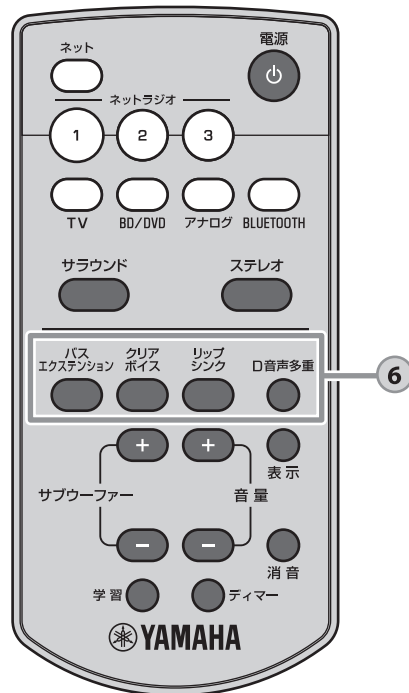
□ □ □ ☀ ☀ ☀ □ □ □

呼び出す

- 1 ラジオ局などを登録したネットラジオ 1、2、または 3 ボタンを押す。

ヒント

- ・ ネットラジオ 1-3 ボタンにラジオ局などを登録すると、MusicCast CONTROLLER アプリの「お気に入り」(1 ~ 3) にも同じ局が登録されます。
MusicCast CONTROLLER アプリの「お気に入り」(1 ~ 3) にラジオ局などを登録すると、ネットラジオ 1-3 ボタンにも同じ局が登録されます。



6

バスエクステンションボタン

バスエクステンション機能の有効 / 無効を切り替えます。バスエクステンションを使用すると、ヤマハ独自の低音増強技術「Advanced Bass Extension Processing」により、迫力のある音を楽しむことができます。



有効にしたとき：3 回点滅して消灯

無効にしたとき：1 回点滅して消灯

クリアボイスボタン

クリアボイス機能の有効 / 無効を切り替えます。クリアボイスを使用すると、映画やドラマのセリフ、ニュースやスポーツ中継のアナウンスなど、人の声が聞き取りやすくなります。



有効にしたとき：3 回点滅して消灯

無効にしたとき：1 回点滅して消灯

D 音声多重ボタン

地上デジタル / BS デジタル放送（モノラル多重音声）の主音声 / 副音声切り替えます。ボタン操作時に点滅するランプの位置で、選択中の音声を確認できます。

主音声



副音声



主音声 + 副音声



リップシンクボタン

映像が音声よりも遅れている場合に、映像を見ながら音（セリフなど）が口の動きに一致するように調整します。以下の手順で調整してください。

ポイント

- 以下の場合はリップシンクを調整できません。
 - 入力が Bluetooth または ネットのとき
 - 他の MusicCast 対応機器に音声を配信しているとき

1 リップシンクボタンを 3 秒以上押す。

リップシンク調整モードになり、左端のランプが点滅します。



2 サブウーファー（+ / -）ボタンで音声の出力タイミングを調整する。

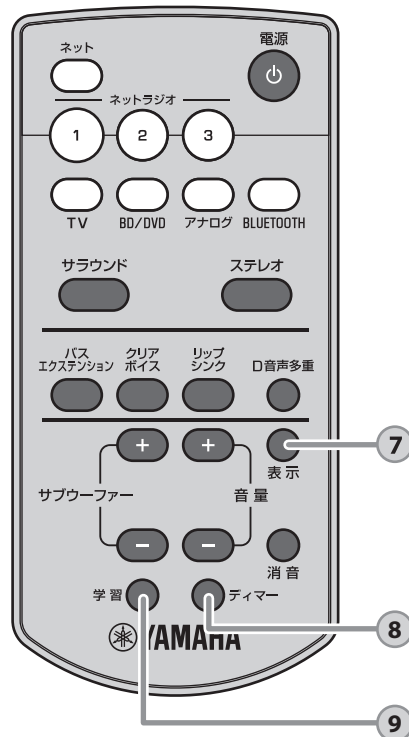
サブウーファー（+）ボタンを押すと音声の出力タイミングが遅くなります。



3 調整が終わったら、リップシンクボタンを押す。

ヒント

- 最後の操作から 20 秒経過すると、自動的に調整モードが終了します。



7

表示ボタン

表示ボタンを押しているあいだ、入力している音声信号の種類や、クリアボイスの有効/無効などをランプの点灯で確認できます。

入力している音声信号の種類

MPEG2 AAC

□ □ ■ □ □ □ □ □ □
緑

DTS デジタルサラウンド

□ □ □ ■ □ □ □ □ □
緑

ドルビーデジタル

□ □ □ □ ■ □ □ □ □
緑

ドルビープロロジック II 使用 (2 チャンネルステレオ信号をサラウンドで再生しているとき)

□ □ □ □ □ ■ □ □ □
緑

本機の機能と設置の状態

バスエクステンション機能が有効

□ □ □ □ □ □ ■ □ □
緑

クリアボイス機能が有効

□ □ □ □ □ □ □ ■ □
緑

テレビ台などの上に設置してある場合

□ □ □ □ □ □ □ □ ■
緑

壁に設置してある場合

□ □ □ □ □ □ □ □ ■
青

ヒント

- 本機は以下の音声信号を再生できます。アナログや PCM 音声信号の入力時は、ランプが点灯しません。
 - アナログ
 - PCM (2ch)
 - MPEG2 AAC
 - ドルビーデジタル
 - DTS デジタルサラウンド

8

ディマボタン

ランプの明るさを切り替えます。ボタンを押すたびに、ランプの明るさが以下のように切り替わります。

暗い (初期設定) → 消灯 → 明るい
↑

操作直後は明るくなり、数秒間経過すると設定した明るさになります。

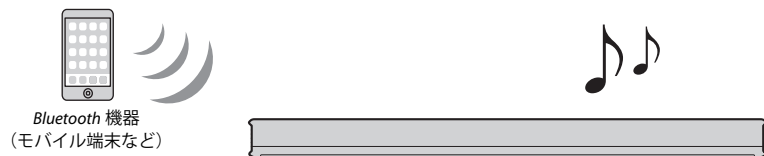
9

学習ボタン

テレビリモコン学習モードになります (27 ページ)。

Bluetooth 機器の音楽を聴く

モバイル端末やデジタル音楽プレーヤーなどの Bluetooth 機器の音声を、ワイヤレスで再生できます。



ポイント

- 必要に応じて、Bluetooth 機器側の音量を調整してください。
- ネットワークスタンバイ（31 ページ）を有効にすると、Bluetooth 機器の操作で本機の電源がオンになります。
- 本機と Bluetooth 機器の距離は 10m 以内で操作してください。

ヒント

- ご使用の際には、Bluetooth 機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

1 本機のリモコンのBLUETOOTHボタンを押し、入力をBluetoothに切り替える。

本機の BLUETOOTH ランプが点灯します。



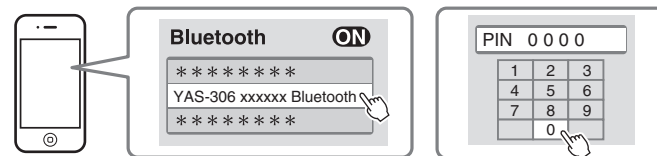
他の Bluetooth 機器を接続したことがある場合、BLUETOOTH ボタンを押すと前回接続した機器と接続されます。いったん切断してから接続を行ってください。

2 Bluetooth 機器側の Bluetooth 機能をオンにする。

3 Bluetooth 機器側で Bluetooth 機器のリストが表示されたら、「YAS-306 xxxxxx Bluetooth」* を選ぶ。

* 本機を MusicCast 機器として登録した場合は（19 ページ）、ルーム名（ネットワーク名）が表示されます。

パスキー（PIN）の入力画面が表示された場合は、数字の「0000」を入力します。

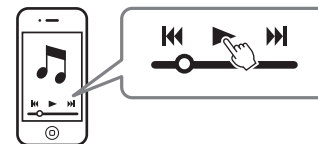


接続が完了すると、本機の Bluetooth ランプが点灯します。



Bluetooth 機器側には Bluetooth 記号、または接続完了メッセージが表示されます。

4 Bluetooth 機器側で曲を再生する。



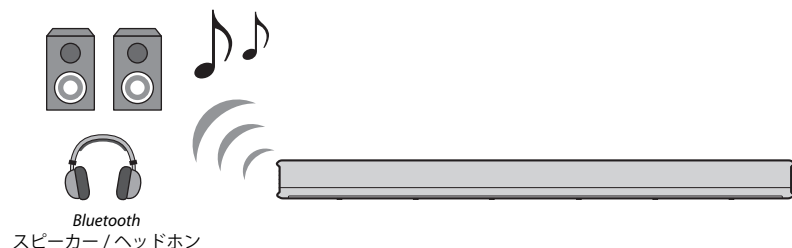
Bluetooth 接続を切断する

Bluetooth 接続中に以下のいずれかの操作を行うと、Bluetooth 接続が切断され、本機の Bluetooth ランプが消灯します。

- Bluetooth 機器側で Bluetooth 機能をオフにする。
- 本機のリモコンの BLUETOOTH ボタンを 3 秒以上押す。
- 本機の入力を BLUETOOTH 以外に切り替える。
- 本機の電源をオフにする。

ワイヤレスヘッドホンで聴く

本機で再生する音声を Bluetooth 対応のワイヤレスヘッドホンなどで聴くことができます。モバイル端末にインストールした MusicCast CONTROLLER アプリを使って、ワイヤレスヘッドホンに音声を送信します。



ポイント

- A2DP プロファイルに対応した Bluetooth 機器をお使いください。
- AirPlay や Bluetooth 機器の音声を他の Bluetooth 機器に送信して聴くことはできません。
- 本機と Bluetooth 機器の距離は 10m 以内で操作してください。

ヒント

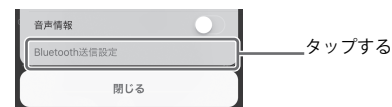
- 本機からも再生音が出ます。
- MusicCast CONTROLLER アプリの画面は iPhone の表示例です。
- ご使用の際には、Bluetooth 機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

- 1 MusicCast CONTROLLER アプリを使って本機をネットワークに接続し、MusicCast 機器として登録する（19 ページ）。
- 2 MusicCast CONTROLLER アプリで曲（Bluetooth 以外）を再生する。
- 3 Bluetooth 機器（ワイヤレスヘッドホンなど）を、本機と Bluetooth 接続できるように設定する。

- 4 MusicCast CONTROLLER アプリの再生画面の をタップする。



- 5 「Bluetooth 送信設定」をタップする。



- 6 Bluetooth 送信機能を有効にし、送信先の Bluetooth 機器（ワイヤレスヘッドホンなど）を選ぶ。

接続が完了すると本機の ランプが点灯し、送信先の Bluetooth 機器（ワイヤレスヘッドホンなど）から音が出ます。



- 7 設定画面を閉じる。

Bluetooth 接続を切断する

Bluetooth 接続中に以下のいずれかの操作を行うと、Bluetooth 接続が切断され、本機の ランプが消灯します。

- Bluetooth 機器側で Bluetooth 接続を切断する、または電源をオフにする。
- MusicCast CONTROLLER アプリの Bluetooth 送信機能を無効にする。
- 本機のリモコンの BLUETOOTH ボタンを 3 秒以上押す。
- 本機の電源をオフにする。

ネットワークを活用する

ネットワーク機能と MusicCast CONTROLLER アプリについて

本機をネットワークに接続すると、インターネットラジオや AirPlay、パソコン（サーバー）に保存されている音楽ファイルを本機で再生できます。

ほとんどの再生は、モバイル端末専用アプリ「MusicCast CONTROLLER」が必要になります。モバイル端末に MusicCast CONTROLLER アプリをインストールし、アプリを操作して音楽ファイルを再生します。

ネットワークの接続から再生までを以下の順序で進めてください。

1 有線ネットワーク接続（18 ページ）または無線ネットワーク接続（19 ページ）を選ぶ



2 MusicCast CONTROLLER アプリを使って本機をネットワークに接続し、MusicCast 機器として登録する（19 ページ）



3 MusicCast CONTROLLER アプリ * を使ってネットワーク経由の音楽を再生する（22 ～ 26 ページ）

*AirPlay は MusicCast CONTROLLER アプリを使わなくても再生できます。

ポイント

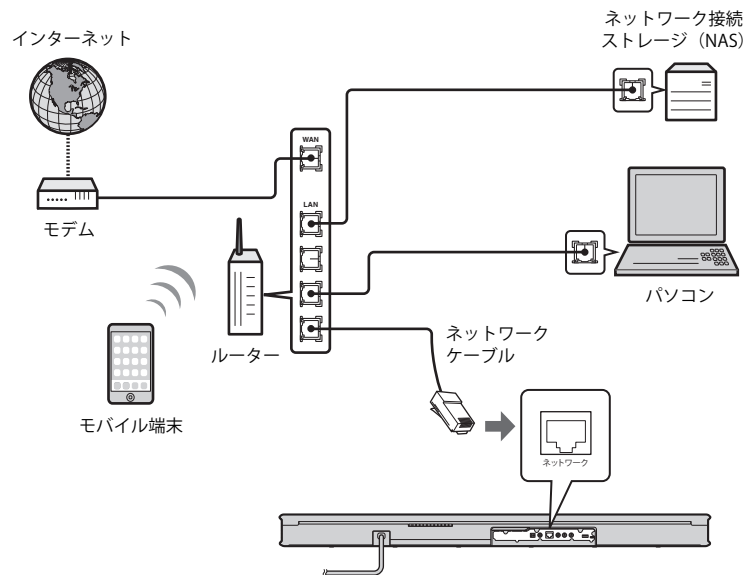
- ネットワークを利用するには、本機とパソコンやモバイル端末が同じルーターに接続されている必要があります。
- マルチ SSID 対応ルーターでは、接続する SSID により他の機器へのアクセスが制限されることがあります。本機とモバイル端末は同じ SSID に接続してください。
- セキュリティソフトや、ネットワーク機器の設定（ファイアウォールなど）により、本機がパソコンやインターネットラジオにアクセスできないことがあります。その場合はセキュリティソフトやネットワーク機器の設定を変更してください。
- ルーターの MAC アドレスフィルタが有効になっている場合は接続できません。ルーターの設定を確認してください。
- サブネットを手動で設定する際は、すべて本機と同じサブネットに設定してください。
- インターネットサービスは、ブロードバンド回線の使用をおすすめします。
- 本機は手動で設定が必要なネットワークには接続できません。DHCP が有効なルーターに接続してください。

ネットワークに接続する

ご利用のネットワーク環境に合わせて、有線ネットワークまたは無線ネットワーク接続を選びます。

有線ネットワークの接続

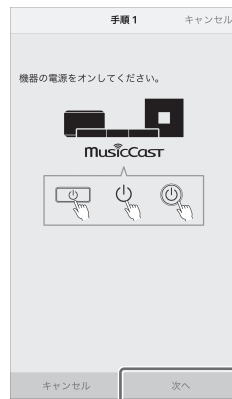
有線ネットワークを利用するには、市販の STP ネットワークケーブル（CAT-5 以上のストレートケーブル）を使って、本機をルーターに接続します。



ヒント

- ネットワークの接続や設定を変更した場合は、もう一度 MusicCast CONTROLLER アプリを使って本機をネットワークに接続し、MusicCast 機器として登録してください（19 ページ）。

3 本機の電源をオンにし、「次へ」をタップする。

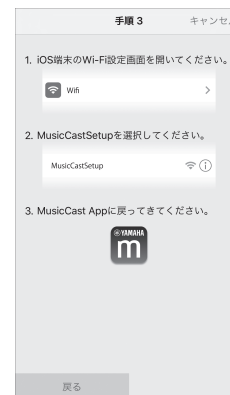


4 本機の ランプが点滅するまで CONNECT ボタンを押す。

5 画面の案内に従ってネットワークを設定する。

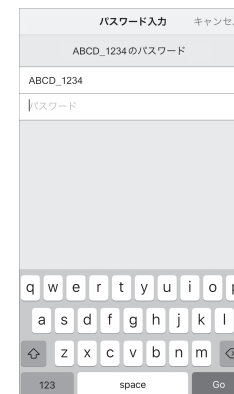
ヒント

- 以下の画面が表示された場合は、画面の案内に従ってネットワークを設定してください。



1. モバイル端末のホームボタンを使って、ホーム画面に戻る。
2. 「設定」から「Wi-Fi」を選ぶ。
3. 「ネットワークを選択…」から「MusicCastSetup」を選ぶ。
4. ホームボタンを使って MusicCast Controller アプリに戻る。

- 以下の画面が表示された場合は、本機を接続するネットワークを選び、ルーターのパスワード（暗号化キー）を入力してください。
ルーターのパスワード（暗号化キー）は、ルーター本体などに表示されています。ルーターに付属の取扱説明書をご覧ください。



6 本機を MusicCast 機器として登録するために、以下の項目を設定する。

- ロケーション名（自宅、A さんの家など）
- 設置した部屋の名前、写真

ロケーション名、設置した部屋の名前、写真は後から変更できます。



これで、MusicCast CONTROLLER アプリを使ったネットワークの接続が完了し、本機は MusicCast 機器として登録されました。

ヒント

- MusicCast CONTROLLER アプリに別の MusicCast 機器をすでに登録してある場合、本機をアプリに追加するにはルーム選択画面で⚙️(設定) をタップし、「新しい機器を登録する」を選んでください。



パソコン（サーバー）の音楽ファイルを聴く

パソコンや DLNA 対応のネットワーク接続ストレージ（NAS）に保存されている音楽ファイルを本機で再生します。

ポイント

- 無線ネットワーク接続時に音声途切れる場合は、有線でネットワークに接続してください。

◆ 再生できるファイルフォーマット

ファイル	サンプリング周波数 (kHz)	チャンネル数	ギャップレス再生対応
WAV*	32 ～ 192	2	可
MP3	8 ～ 48	2	—
WMA	8 ～ 48	2	—
MPEG-4 AAC	8 ～ 48	2	—
FLAC	32 ～ 192	2	可
ALAC	32 ～ 96	2	可
AIFF	32 ～ 192	2	可

* リニア PCM フォーマットのみ

ポイント

- パソコン（サーバー）の FLAC ファイルを再生するには、パソコン（サーバー）にインストールされているサーバーソフトが、DLNA を使った FLAC ファイルの共有に対応している必要があります。
- DRM（デジタル著作権管理）により保護されたファイルは再生できません。

メディアの共有設定を行う

パソコン（サーバー）に保存されている音楽ファイルを本機で再生するには、各機器で本機とのメディア共有を有効にする必要があります。

◆ Windows Media Player がインストールされているパソコン

本機は Windows Media Player 11 以降に対応しています。ここでは例として、Windows Media Player 12 の設定方法を説明します。

ポイント

- 操作方法はお使いのパソコンや設定により異なります。詳しくは、パソコンメーカーや Windows Media Player のヘルプをご覧ください。

- 1 パソコンで Windows Media Player 12 を起動する。
- 2 メニューバーの「ストリーム」から、「メディアストリーミングを有効にする」を選ぶ。
- 3 「メディアストリーミングを有効にする」をクリックする。
- 4 機種名の右側にあるドロップダウン・リストで「許可」を選ぶ。
- 5 「OK」をクリックして設定を終了する。

◆ Windows Media Player 以外の DLNA サーバーソフトがインストールされているパソコン（サーバー）


各機器またはソフトウェアの取扱説明書を参照してメディアの共有設定を行ってください。

音楽ファイルを再生する

モバイル端末にインストールした MusicCast CONTROLLER アプリを使って再生します。

ポイント

- 再生する前に、本機を MusicCast 機器として登録してください（19 ページ）。

- 1 MusicCast CONTROLLER アプリで本機のルーム（Room1 など）を選ぶ。
- 2  (Server) をタップする。
- 3 画面の案内に従って、曲を選ぶ。

ヒント

- MusicCast CONTROLLER アプリの「お気に入り」（1 ～ 3）に曲を登録すると、ネットラジオ 1-3 ボタンを使って登録した曲を呼び出せます。

インターネットラジオを聴く

インターネットラジオ放送を受信します。

ポイント


- ・インターネットラジオ局や時間帯によっては、受信できないことがあります。
- ・vTuner ラジオ局データベースサービスを利用してインターネットラジオ放送を受信します。このサービスは事前の通知なく中止される場合があります。

インターネットラジオ局を選ぶ

モバイル端末にインストールした MusicCast CONTROLLER アプリを使って、インターネットラジオ局を選びます。

ポイント

- ・選局する前に、本機を MusicCast 機器として登録してください（19 ページ）。

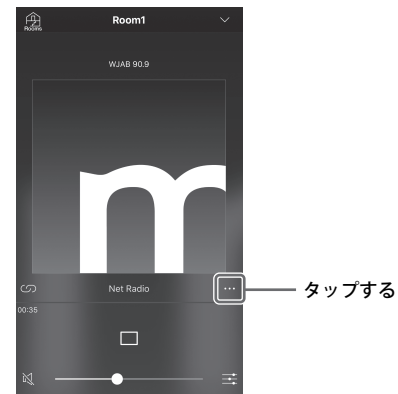
- 1 MusicCast CONTROLLER アプリで本機のルーム（Room1 など）を選ぶ。
- 2  (Net Radio) をタップする。
- 3 「地域」や「ジャンル」などから、放送局を選ぶ。

ヒント

- ・ MusicCast CONTROLLER アプリの「お気に入り」（1 ～ 3）に放送局を登録すると、ネットラジオ 1-3 ボタンを使って登録した放送局を呼び出せます。

◆ MusicCast CONTROLLER アプリを使ってブックマークに登録する

- 1 登録したいインターネットラジオ局を再生する。
- 2 再生画面の・・・をタップし、「ブックマークに追加」をタップする。



登録したインターネットラジオ局を呼び出す

- 1 「ブックマーク」をタップし、「My_Favorites」をタップしてインターネットラジオ局を選ぶ。

radiko.jp を聴く

radiko.jp を受信します。

ヒント

- radiko.jp は、地上波ラジオ放送を CM も含めて同時にインターネットで配信する「IP (Internet Protocol) サイマルラジオ」サービスです。放送エリアに準じた地域に配信するサービスのため、エリア（都道府県）ごとに対応している放送局が異なります。対応しているエリアや放送局については、radiko.jp のウェブページをご覧ください。
- radiko.jp プレミアム（有料）に登録すると、全国のラジオ局を受信できます。
- radiko.jp プレミアムを利用するには、radiko.jp のウェブサイトでユーザー登録し、モバイル端末にインストールした MusicCast CONTROLLER アプリからログイン名とパスワードを入力してください。

放送局名から選局する

モバイル端末にインストールした MusicCast CONTROLLER アプリを使って、選局します。

ポイント

- 選局する前に、本機を MusicCast 機器として登録してください（19 ページ）。

- 1 MusicCast CONTROLLER アプリで本機のルーム（Room1 など）を選ぶ。
- 2 radiko.jp をタップする。
- 3 地域を選んで、ラジオ局を選ぶ。

ヒント

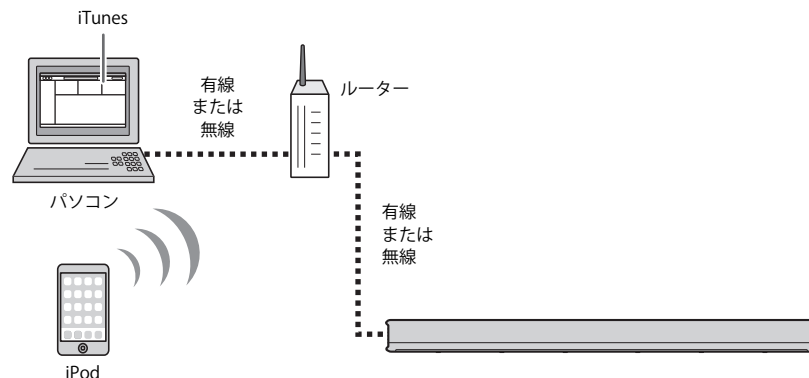
- MusicCast CONTROLLER アプリの「お気に入り」（1 ～ 3）にラジオ局を登録すると、ネットラジオ 1-3 ボタンを使って登録したラジオ局を呼び出せます。

AirPlay で音楽を聴く

AirPlay 機能を使って、iTunes や iPod の音楽ファイルをネットワーク経由で再生します。

ヒント




- この項では iPod touch、iPhone、iPad を総称して「iPod」と表記しています。説明文に限定する記載がない場合、「iPod」という表記は iPod touch、iPhone および iPad を意味します。



ポイント

- AirPlay は iOS 4.3.3 以降を搭載した iPhone、iPad、iPod touch、OSX Mountain Lion を搭載した Mac、iTunes 10.2.2 以降をインストールした Windows 搭載パソコンにおいて動作します。

ヒント

- ご購入後はじめて本機の電源をオンにすると、 ランプがゆっくり点滅します。 ランプの点滅中に、お使いの iOS デバイス (iPhone など) のネットワーク設定を本機に適用して無線ネットワークに接続できます。(本機のネットワーク端子とルーターをケーブルで接続している場合 (有線ネットワーク接続)、 ランプは点滅しません。)



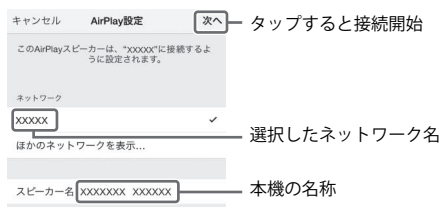
iOS デバイスの Wi-Fi 設定画面を開き、「新しい AIRPLAY スピーカーを設定…」から本機を選んでください。

画面表示例



以下の画面が表示されたら、本機を接続するネットワーク (アクセスポイント) を選びます。

画面表示例



MusicCast CONTROLLER アプリを使って本機をネットワークに接続すると、ネットワーク設定は MusicCast CONTROLLER の設定に変更されます。

iTunes/iPod で曲を再生する

iTunes/iPod を操作して再生します。

1 本機の電源をオンにし、iTunes を起動する、または iPod の音楽再生画面を表示する。

iTunes/iPod が本機を認識すると AirPlay アイコン () が表示されます。

iTunes (表示例)



iPod (表示例)



ポイント

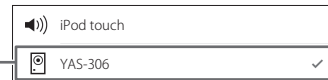
- アイコンが表示されない場合は、本機とパソコンや iPod が正しくルーターに接続されているか確認してください。

2 iTunes/iPod で AirPlay アイコンをクリック (タップ) し、音声の出力先として本機を選ぶ。

iTunes (表示例)



iPod (表示例)



本機

3 iTunes/iPod を操作して曲を再生する。

iPod の「ミュージック」アプリ、またはパソコンの iTunes を使って再生します。

ヒント

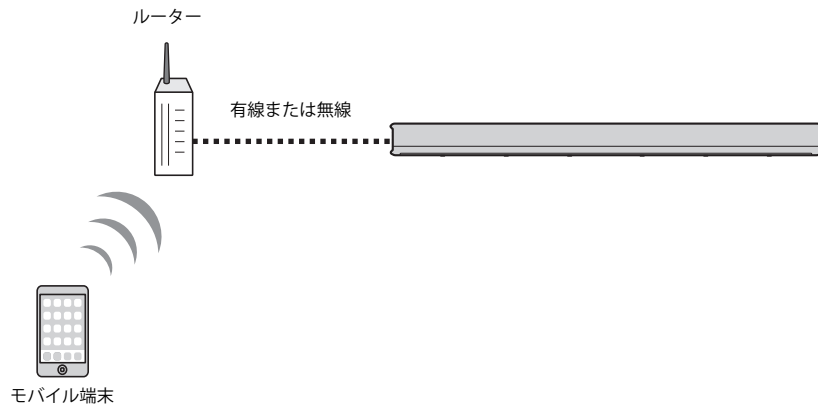
- ネットワークスタンバイ (31 ページ) を有効にした場合は、iTunes/iPod で再生を始めると本機の電源が自動的にオンになります。
- 再生中は iTunes/iPod から本機の音量を操作できます。

ご注意

iTunes/iPod で音量を調節すると、予想以上に音量が大きくなり、本機やスピーカーが故障する場合があります。再生中に音量が大きくなってしまった場合は、すぐに iTunes/iPod の再生を停止してください。

モバイル端末の音楽を聴く

モバイル端末の音楽ファイルをネットワーク経由で再生します。




モバイル端末で曲を再生する

モバイル端末にインストールした MusicCast CONTROLLER アプリを使って再生します。

ポイント

- 再生する前に、本機を MusicCast 機器として登録してください (19 ページ)。

- 1 MusicCast CONTROLLER アプリで本機のルーム (Room1 など) を選ぶ。
- 2  をタップする。
- 3 「プレイリスト」や「アーティスト」などの分類から曲を選ぶ。

ご注意

モバイル端末で音量を調節すると、予想外に音量が大きくなり、本機やスピーカーが故障する場合があります。再生中に音量が大きくなってしまった場合は、すぐにモバイル端末の再生を停止してください。

設定する

テレビのリモコンで本機の音量などを調節する（テレビリモコン学習機能）

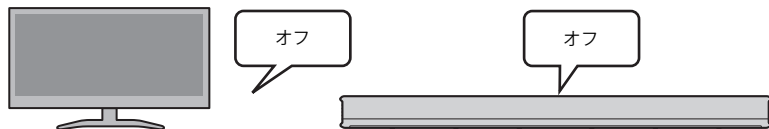
本機にテレビのリモコン信号を学習させると、テレビのリモコンを使って本機とテレビの電源を同時に操作したり、本機の音量調節ができるようになります。

ポイント

- この機能は、テレビのリモコンが赤外線信号を使用している場合のみ利用できます。無線方式のリモコンは利用できません。

1 テレビと本機の電源をオフにする。

テレビをつけたまま設定すると、テレビの光に妨害されて学習が成功しない場合があります。




2 本機のリモコンを本機のリモコン受光部に向けて、学習ボタンを3秒以上押す。

本機が学習モードに入ります。学習モード中は、本機のランプが以下のように点滅します。



ポイント

- これ以降の手順3～6は、「テレビのリモコン」と「本機のボタン」のみで設定します（本機のリモコンは使用しません）。
- すでに学習済みの機能がある場合は、以下のランプも点灯します。
消音：BD/DVD、音量（－）：アナログ、音量（＋）：BLUETOOTH、電源：ネット
手順3～7に従って本機に学習させると、学習済みの機能はすべて消去されます。消去したくないときは、リモコンの学習ボタンまたは電源（）ボタンを押してください。学習モードはキャンセルされます。
- 一度学習したあとで、追加で学習させることはできません。必要な機能をすべて学習し直してください。

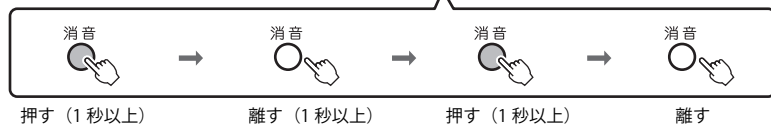
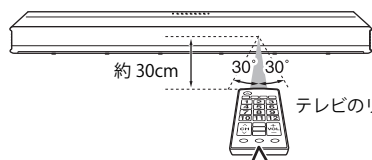
3 テレビのリモコンの消音信号を学習させる。














3-1 本機の ボタンを押す。



3-2 テレビのリモコンを本機のリモコン受光部に向け、リモコンの消音ボタンを1秒以上押し、1秒以上離す操作を2回繰り返す。

リモコン受光部は設置方法によって異なります (8～9 ページ)。



結果	音のタイプ	ランプ
学習成功	ポーン	□  □  □  □  □  □  □
学習失敗 3-1 からやり直してください。	ブザー	□       □  □

学習失敗時のチェックポイント

- ✓ テレビの電源がオフになっていますか
- ✓ 直射日光や蛍光灯が本機に直接当たらないようにして、操作していますか
- ✓ 手順3～6でテレビのリモコンを使っていますか (本機のリモコンは使用しません)
- ✓ 本機とリモコンの操作範囲は上図のとおりになっていますか
- ✓ テレビのリモコンのボタンを1秒以上押し、1秒以上離していますか














上記のチェックポイントをすべてクリアしていても学習に失敗する場合は、ボタンを押す→離す操作を3回繰り返してください。

4 テレビのリモコンの音量 (－) 信号を学習させる。

4-1 本機の ボタンを押す。



4-2 テレビのリモコンを本機のリモコン受光部に向け、リモコンの音量 (－) ボタンを1秒以上押し、1秒以上離す操作を2回繰り返す。














結果	音のタイプ	ランプ
学習成功	ポーン	□  □  □  □  □  □  □
学習失敗 4-1 からやり直してください。	ブザー	□       □  □

5 テレビのリモコンの音量 (+) 信号を学習させる。

5-1 本機の ボタンを押す。

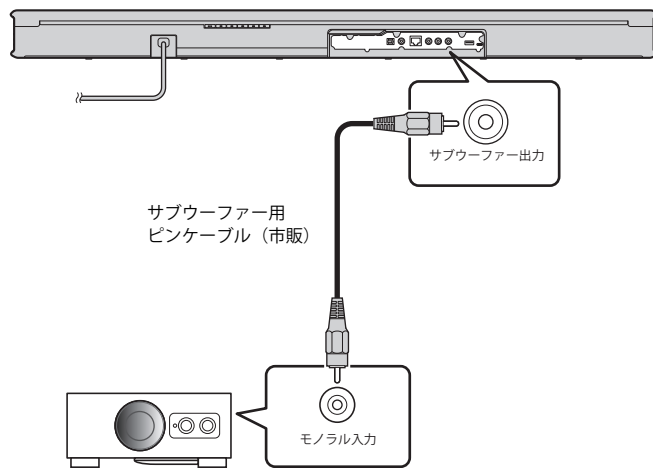


5-2 テレビのリモコンを本機のリモコン受光部に向け、リモコンの音量 (+) ボタンを1秒以上押し、1秒以上離す操作を2回繰り返す。

結果	音のタイプ	ランプ
学習成功	ポーン	□  □  □  □  □  □  □
学習失敗 5-1 からやり直してください。	ブザー	□       □  □

外部サブウーファーを使用する

本機はサブウーファーを内蔵していますが、さらに低音を強化したい場合など、外部サブウーファーを使用することもできます。サブウーファーを本機のサブウーファー出力端子に接続します。内蔵サブウーファーおよび外部サブウーファーの両方から音声出力されます。



ポイント

- ・ 外部サブウーファーは、アンプが内蔵されているタイプのものをご使用ください。

自動スタンバイ機能の有効 / 無効を設定する

自動スタンバイ機能を有効にすると、電源の切り忘れを防止できます。

ポイント

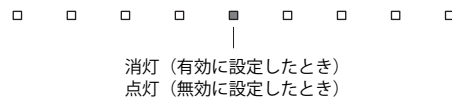
- ・ ご購入時の自動スタンバイ機能は無効になっています。
- ・ 自動スタンバイ機能を有効にした場合、以下のいずれかの状態になると自動的に電源がオフになります。
 - 操作がない状態で 8 時間経過
 - BLUETOOTH またはネットが入力ソースとして選択され、音声入力および操作がない状態で 20 分経過

1 本機の電源をオフにする。

2 本機の  ボタンを押しながら  ボタンを押す。



自動スタンバイ機能の有効 / 無効が切り替わり、本機の電源がオンになります。オンにした直後の数秒間、ランプの状態で自動スタンバイ機能の設定を確認できます。



ネットワークスタンバイ機能の有効/無効を設定する

ネットワークスタンバイ機能を有効にすると、モバイル端末や *Bluetooth* 機器の操作で本機の電源を以下のようにオン/オフできます。

- 本機の電源がオフのとき、以下の再生操作をすると本機の電源がオンになります。
 - AirPlay で再生する
 - DLNA 対応のネットワーク接続ストレージ (NAS) に保存した音楽ファイルを再生する
- モバイル端末にインストールした MusicCast CONTROLLER アプリで電源を操作できます。
- 本機の電源がオフのとき、*Bluetooth* 機器側で本機に接続すると、本機の電源がオンになり、入力が *Bluetooth* に切り替わります。

ポイント

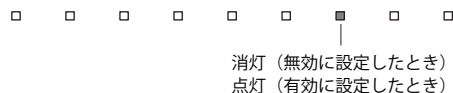
- ご購入時のネットワークスタンバイ機能は有効になっています。

1 本機の電源をオフにする。

2 本機の ボタンを押しながら ボタンを押す。



ネットワークスタンバイ機能の有効/無効が切り替わり、本機の電源がオンになります。オンにした直後の数秒間、ランプの状態ネットワークスタンバイ機能の設定を確認できます。



ヒント

- ネットワークスタンバイ機能を有効にすると、無効のときに比べて電源オフ状態の電力消費量が多くなります。

無線 (Wi-Fi) 接続の有効 / 無効を設定する

無線 (Wi-Fi) 接続の有効 / 無効を切り替えます。

ポイント

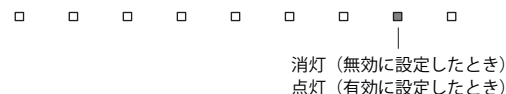
- ご購入時の無線 (Wi-Fi) 接続は有効になっています。

1 本機の電源をオフにする。

2 本機の CONNECT ボタンを押しながら ボタンを押す。



無線 (Wi-Fi) 接続の有効 / 無効が切り替り、本機の電源がオンになります。オンにした直後の数秒間、ランプの状態無線 (Wi-Fi) 接続の設定を確認できます。



ヒント



- 無効に設定した場合でも、MusicCast CONTROLLER でネットワークを設定すると、無線 (Wi-Fi) 接続は有効になります。

Bluetooth 機能の有効 / 無効を設定する

Bluetooth 機能の有効 / 無効を切り替えます。

ポイント

- ご購入時の Bluetooth 機能は有効になっています。

- 1 本機の電源をオフにする。
- 2 本機の  ボタンを押しながら  ボタンを押す。



Bluetooth 機能の有効 / 無効が切り替り、本機の電源がオンになります。オンにした直後の数秒間、ランプの状態が Bluetooth 機能の設定を確認できます。



本機のファームウェアを更新する

機能の追加や不具合の改善に応じて、新しいファームウェアが提供されることがあります。モバイル端末にインストールした MusicCast CONTROLLER アプリを使って、ファームウェアを更新できます。

ご注意

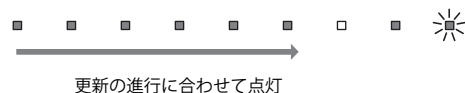
- ファームウェア更新中は、本機を操作したり電源コードやネットワークケーブルを抜いたりしないでください。
- インターネット回線の速度が十分に得られない場合や、無線ネットワークに接続している場合など、接続状態によってはファームウェアの更新に失敗することがあります。そのような場合は、時間をおいてお試しください。
- ファームウェアに関する詳細は弊社ウェブサイトをご覧ください。

新しいファームウェアが提供されると、MusicCast CONTROLLER アプリの画面に「新しいファームウェアがあります。今すぐ更新しますか？」というメッセージが表示されます。


- 1 「はい」をタップする。

ファームウェアの更新が始まります。

更新中は、アプリの画面に進行状況を示すバーが表示されます。本機のランプの状態でも進行状況を確認できます。



ヒント

- 複数のアップデートがある場合は、アップデートごとに最初から点灯が始まります。
- 「あとで」を選んだ場合は、アプリのルーム設定画面で  (設定) をタップし、「新しいファームウェアが利用可能です。」を選びます。画面の案内に従ってファームウェアを更新してください。

更新が成功すると、アプリの画面に「ファームウェアの更新が完了しました。」とアプリの画面に表示され、本機のすべてのランプが点滅します。



2 本機の電源ボタンを押す。



これでファームウェアの更新は完了です。

ポイント

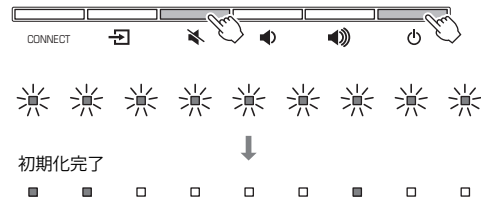
- ・ファームウェアの更新に失敗したときは、アプリの画面に「ファームウェア更新に失敗しました。」と表示され、本機の右端のランプが青で点滅します。電源ボタンを押して本機の電源を入れ直し、更新をやり直してください。それでも更新できない場合は、ネットワーク接続を確認してください。

初期設定に戻す

本機の設定をすべて初期状態に戻します。

1 本機の電源をオフにする。

2 すべてのランプが点滅するまで、本機のマイクボタンを押しながら電源ボタンを押す。




困ったときは

ご使用中に本機が正常に動作しなくなった場合は、下記をご確認ください。対処しても正常に動作しない場合や、下記以外で異常が認められた場合は、本機の電源をオフにし、電源プラグを抜いて、お買い上げ店、または巻末の「お問い合わせ窓口」までお問い合わせください。
最初に以下の点を確認してください。

- ① 本機、テレビ、再生機器（BD レコーダーなど）の電源プラグが AC コンセントにしっかりと接続されている。
- ② 本機、テレビ、再生機器（BD レコーダーなど）の電源が入っている。
- ③ 各機器間のケーブルが端子にしっかりと接続されている。

◆ 電源 / 動作全般

症状	原因	対策
電源が突然切れる	自動スタンバイ機能が有効に設定されていて、以下のいずれかの条件の場合、自動的に電源がオフになります。 - 操作がない状態で 8 時間経過 - BLUETOOTH またはネットが入力ソースとして選択され、音声入力および操作がない状態で 20 分経過	もう一度電源を入れてください。自動的に電源がオフにならないようにする場合は、自動スタンバイ機能を無効に設定してください（30 ページ）。
	保護回路が作動した。（ステータスランプが点滅します。）	接続が正しいことを確認した後で、もう一度電源を入れてください。 たびたび電源が切れる場合は、電源プラグをコンセントから抜き、修理ご相談センターにお問い合わせください。
電源が入らない	保護回路が 3 回続けて作動した。（この状態で電源を入れようとすると、ステータスランプが点滅します。）	製品保護のため、電源が入らなくなります。電源プラグをコンセントから抜き、修理ご相談センターにお問い合わせください。
電源がオンのときにランプがすべて消灯している（電源オフのように見える）	操作時以外はランプが点灯しないように設定している。	ディマーボタンを操作してお好みの明るさを選択してください（15 ページ）。

症状	原因	対策
本機が正常に動作しない	外部電気ショック（落雷、過度の静電気など）や、電源電圧の低下により、内部マイコンがフリーズしている。	本機の  （電源）ボタンを 10 秒以上押し続けて電源をオンにしてください。 （それでも解決しない場合は、電源プラグをコンセントから抜き、接続し直してください。）
操作をしていないのに本機の電源がオンになる	近くで、別の Bluetooth 対応機器が使用されている。	Bluetooth 接続を切断してください（16 ページ）。
テレビの 3D メガネが機能しない	本機がテレビの 3D メガネ用発信部を隠している。	テレビの 3D メガネ発信部の位置を確認し、発信部が隠れないように本機を移動してください。

◆ 音声

症状	原因	対策
音が出ない	再生したい入力選ばれていない。	正しい入力を選んでください (12 ページ)。
	消音されている。	消音を解除してください (13 ページ)。
	音量が小さい。	音量を上げてください (13 ページ)。
	本機の電源コードがしっかり接続されていない。	本機の電源コードをコンセントにしっかり接続してください (10 ページ)。
	再生機器の入力端子に接続している。	本機の入力端子と再生機器の出力端子を接続してください。
	本機が再生できない信号が入力されている。	再生機器側のデジタル音声出力設定を PCM、MPEG2 AAC、ドルビーデジタルまたは DTS デジタルサラウンドに変更してください。
サブウーファーから音が出ない	サブウーファーの音量が小さい。	サブウーファーの音量を上げてください (13 ページ)。
	再生している音声にサブウーファーチャンネルの信号や低音信号が含まれていない。	サブウーファーチャンネルの信号が含まれている音声ソースを再生して、サブウーファーから音が出ることを確認してください。
電源を入れ直すと音量が下がる	音量自動調節機能により音量が下がった。 (突然大音量が出力されるのを防ぐため、音量が大きい状態で電源を切った場合、次回電源を入れたときに音量が自動的に調節されます。)	必要に応じて、音量を上げてください (13 ページ)。

症状	原因	対策
サラウンド感が得られない	ステレオ再生している。	サラウンド再生に切り替えてください (12 ページ)。
	音量が小さい。	音量を上げてください (13 ページ)。
	テレビ、または再生機器が常に 2 チャンネル (PCM など) で出力するように設定されている。	テレビ、または再生機器の音声出力設定を AAC、Bitstream (ビットストリーム) などへ変更してください。
	テレビのスピーカーからも音が出ている。	テレビの音量を最小にしてください (10 ページ)。
	視聴位置が本機に極端に近過ぎる。	ある程度、離れた位置で視聴してください。
雑音が入る	デジタル機器や高周波機器が本機の近くに置かれている。	それらの機器を本機から離してください。

◆ リモコン操作

症状	原因	対策
本機を操作できない	操作範囲から外れている。	操作範囲内で操作してください（3ページ）。
	乾電池が消耗している。	乾電池をすべて新品に交換してください（3ページ）。
	本機のリモコン受光部に日光や強い照明が当たっている。	照明、または本機の向きを変えてください。
テレビのリモコンでテレビを操作できない（テレビのリモコンを本機のリモコン受光部に向けて操作しているとき）	本機とテレビが離れすぎている（または近すぎる）ため、本機のテレビリモコンリピーターが正常に機能していない。	本機とテレビを 5cm 以上離して設置してください（8ページ）。
	本機とテレビの間に障害物（ケーブルなど）があるため、本機のテレビリモコンリピーターが正常に機能していない。	本機とテレビの間の障害物を取り除いてください。
	テレビのリモコンが赤外線以外の信号を使用している。	本機のテレビリモコンリピーター機能はご利用になれません。
	テレビのリモコンの信号と、本機のテレビリモコンリピーターから送信している信号が互いに影響し合い、テレビが信号を受信しにくくなっている。	テレビのリモコン受光部が隠れないように本機を移動し、テレビの受光部に向けてテレビのリモコンを操作してください。
	学習させたいボタンを押している時間が短すぎる。	1秒以上押し続けて1秒以上離す操作を2回繰り返してください。失敗してしまう場合は、3回繰り返してください（28ページ）。
テレビのリモコンを学習させることができない	赤外線信号以外のリモコンを使用している。（赤外線リモコンでも対応していない場合があります。）	この場合は学習機能を利用できません。本機のリモコンで操作してください。
	テレビのリモコンを本機のリモコン受光部に向けて操作していない。	本機のリモコン受光部に向けて操作してください（28ページ）。
	テレビのリモコンの乾電池が消耗している。	新しい乾電池に交換してください。
	本機のリモコン受光部に日光や強い照明が当たっている。	照明、または本機の向きを変えてください。
	テレビ画面の光がリモコン信号を妨害している。	テレビの電源をオフにしてください（27ページ）。

症状	原因	対策
テレビのリモコンで本機の音量を上げると、テレビから音声が出力される（学習機能使用時）	テレビの音声出力が有効になっている。	テレビ側の設定で、テレビ（内蔵スピーカー）の音声出力を無効にしてください。 テレビに音声出力の設定がない場合は、以下の方法をお試しください。 - お手持ちのヘッドホン、変換プラグなどをテレビのヘッドホン/イヤホン端子に接続する。 - テレビの音量を最小にする。
		テレビのリモコンの電源ボタンを使うと、本機とテレビの電源が逆になる（例：本機の電源を入れるとテレビの電源が切れる）（学習機能使用時）
テレビのリモコンの電源ボタンを使うと、本機とテレビの電源が逆になる（例：本機の電源を入れるとテレビの電源が切れる）（学習機能使用時）	テレビリモコンを本機に学習させたときに、テレビの電源が入っていた。	テレビ本体の電源ボタンでテレビの電源をオンにし、本機の ON （電源）ボタンで本機の電源をオンにします。次に、テレビのリモコンの電源ボタンでテレビと本機の電源をオフにしてください。

◆ Bluetooth

症状	原因	対策
受信時	Bluetooth 機能が無効になっている。	有効に設定してください (32 ページ)。
	本機の入力が Bluetooth 以外になっている。	入力を Bluetooth にしてください (16 ページ)。
	別の Bluetooth 機器が接続されている。	接続している機器と本機を切断し、受信したい機器と接続してください (16 ページ)。
接続できない	Bluetooth アダプタなどの機器でパスキーが「0000」以外の設定になっている。	パスキーが「0000」の機器をお使いください (16 ページ)。
	接続したい Bluetooth 機器のプロファイルが A2DP 対応ではない。	A2DP 対応の機器 (オーディオ用の Bluetooth 機器) と接続してください。
	本機と Bluetooth 機器の距離が離れすぎている。	本機と Bluetooth 機器との距離を 10m 以内にして接続してください。
	2.4 GHz 帯の電磁波を発するもの (電子レンジ、無線 LAN 機器など) がそばにある。	本機を電磁波を発するものから離して設置してください。
音が出ない、または音が途切れる	送信側の Bluetooth 機器が Bluetooth 信号を本機に送っていない。	送信側の Bluetooth 機能が正しく設定されているか確認してください。
	送信側の Bluetooth 機器を再生していない。	送信側の Bluetooth 機器を再生してください。
	送信側の Bluetooth 機器の音量が最小になっている。	送信側の Bluetooth 機器の音量を上げてください。
	本機と Bluetooth 機器の距離が離れすぎている。	本機と Bluetooth 機器との距離を 10m 以内に近づけてください。
	2.4 GHz 帯の電磁波を発するもの (電子レンジ、無線 LAN 機器など) がそばにある。	本機を電磁波を発するものから離して設置してください。
	接続が切れている。	接続し直してください (16 ページ)。

症状	原因	対策
送信時	Bluetooth 機能が無効になっている。	有効に設定してください (32 ページ)。
	別の Bluetooth 機器が接続されている。	接続している機器と本機を切断し、送信したい機器と接続してください (17 ページ)。
接続できない	接続したい Bluetooth 機器のプロファイルが A2DP 対応ではない。	A2DP 対応の機器 (オーディオ用の Bluetooth 機器) と接続してください。
	本機と Bluetooth 機器の距離が離れすぎている。	本機と Bluetooth 機器との距離を 10m 以内にして接続してください。
	2.4 GHz 帯の電磁波を発するもの (電子レンジ、無線 LAN 機器など) がそばにある。	本機を電磁波を発するものから離して設置してください。
受信側の Bluetooth 機器から音が出ない、または音が途切れる	受信側の Bluetooth 機器の設定が正しくない。	受信側の Bluetooth 機器で、本機から受信できる設定になっているか確認してください。
	受信側の Bluetooth 機器の音量が最小になっている。	受信側の Bluetooth 機器の音量を上げてください。
	送信する音声を再生していない。	MusicCast CONTROLLER アプリを使って、Bluetooth 以外の音声を再生してください (17 ページ)。
	本機と Bluetooth 機器の距離が離れすぎている。	本機と Bluetooth 機器との距離を 10m 以内に近づけてください。
	2.4 GHz 帯の電磁波を発するもの (電子レンジ、無線 LAN 機器など) がそばにある。	本機を電磁波を発するものから離して設置してください。
	接続が切れている。	接続し直してください (17 ページ)。
	AirPlay の再生中に送信しようとした。	AirPlay の音声は送信できません。AirPlay の再生を終了してから接続し直してください (24 ページ)。

◆ ネットワーク

症状	原因	対策
再生が停止してしまう (連続して再生できない)	本機が再生できないファイルが存在する。	パソコン（サーバー）のフォルダーには、本機が再生できないファイル（画像ファイルや隠しファイルなどを含む）を入れないでください。
パソコン（サーバー） が検出されない	メディアの共有設定が正しくない。	本機がパソコン（サーバー）などのフォルダーにアクセスできるように、パソコン（サーバー）のメディアの共有設定を変更してください（22 ページ）。
	セキュリティソフトなどの設定により、パソコン（サーバー）へのアクセスが制限されている。	パソコン（サーバー）のセキュリティソフトの設定を確認してください。
	パソコン（サーバー）が、本機やモバイル端末と同じネットワークに接続されていない。	パソコン（サーバー）のネットワーク設定を確認し、本機やモバイル端末と同じネットワークに接続してください。
パソコン（サーバー） のファイルが表示（再生）されない	本機またはパソコン（サーバー）が非対応のファイル形式を使用している。	本機およびパソコン（サーバー）が対応しているファイル形式を使用してください（22 ページ）。
インターネットラジオ を再生できない	選択したラジオ局のサービスが現在停止している。	ラジオ局側のネットワークエラーにより受信できない場合や、サービスを休止している場合があります。しばらく経ってから再生するか、別のラジオ局を選んでください。
	選択したインターネットラジオ局が無音を放送している。	時間帯により無音放送になっているラジオ局があります。この場合は受信できていても音はでません。しばらく経ってから再生するか、別のラジオ局を選んでください。
	ルーターなどネットワーク機器のファイアウォール設定により、ネットワークへのアクセスが制限されている。	ファイアウォールの設定を確認してください。なお、インターネットラジオは各ラジオ局指定のポート経由でのみ再生できます。ポート番号はラジオ局により異なります。
ファームウェアの更新 に失敗した	ネットワークの接続状態がよくない。	しばらく経ってから再度更新をお試しください（32 ページ）。

症状	原因	対策
AirPlay 使用時、iPod から本機を認識できない	(同じアクセスポイントの) 別々の SSID に接続している。	本機とモバイル端末のネットワーク設定を確認し、同じ SSID を持つネットワークに接続してください。
無線 LAN ルーター（アクセスポイント）経由でインターネットに接続できない	無線 LAN ルーター（アクセスポイント）の電源が切れている。	無線 LAN ルーター（アクセスポイント）の電源を入れてください。
	本機と無線 LAN ルーター（アクセスポイント）との距離が離れすぎている。	本機と無線 LAN ルーター（アクセスポイント）を近づけて設置してください。
	本機と無線 LAN ルーター（アクセスポイント）の間に障害物がある。	本機と無線 LAN ルーター（アクセスポイント）の間に障害物がない場所に設置してください。
無線ネットワークが見 つからない	電子レンジやその他の無線機器からの電磁波により、無線通信が妨害されている。	本機を電磁波を発するものから離して設置してください。
	無線 LAN ルーター（アクセスポイント）のファイアウォール設定により、ネットワークへのアクセスが制限されている。	無線 LAN ルーター（アクセスポイント）のファイアウォール設定を確認してください。

主な仕様

項目	仕様
アンプ部	実用最大出力 (非同時駆動、JEITA) フロント L/R 30W×2ch サブウーファー 60W
フロント L/R 部	形式 密閉型 スピーカーユニット 5.5cm コーン 非防磁型 x2 再生周波数帯域 150Hz ~ 22kHz インピーダンス 6Ω
ツイーター部	形式 — スピーカーユニット 19mm バランスドーム防磁型 x2 再生周波数帯域 4kHz ~ 23kHz インピーダンス 4Ω
サブウーファー部	形式 バスレフ型 スピーカーユニット 7.5cm コーン 非防磁型 x2 再生周波数帯域 55Hz ~ 150Hz インピーダンス 3Ω
デコーダー部	対応音声信号 PCM (2ch) Dolby Digital (5.1ch まで) DTS Digital Surround (5.1ch まで) MPEG2 AAC (5.1ch まで)
入力端子	光デジタル (光) 1 (TV) 同軸デジタル (同軸) 1 (BD/DVD) アナログ (RCA/ ステレオ) 1 組 (アナログ)
出力端子	アナログ (RCA/ モノラル) 1 (サブウーファー出力)
その他の端子	アフターサービス専用 1 (サービス専用) LAN 1 (ネットワーク)

項目	仕様
ネットワーク	Ethernet 規格：100BASE-T/10BASE-T 対応コーデック WAV (PCM フォーマットのみ) / AIFF/FLAC：192 kHz まで ALAC：96 kHz まで MP3/WMA/MPEG-4 AAC：48 kHz まで
無線 LAN (Wi-Fi)	DLNA ver1.5 対応 AirPlay 対応 インターネットラジオ radiko.jp 無線 LAN 規格 IEEE802.11b/g/n 使用周波数帯域 2.4GHz
Bluetooth	Bluetooth バージョン Ver.2.1+EDR 使用周波数帯域 2.4GHz 対応プロファイル 受信：A2DP、AVRCP 送信：A2DP 対応コーデック 受信：SBC、MPEG-4 AAC 送信：SBC 無線出力 Bluetooth Class2 見通し通信距離 約 10m 対応コンテンツ保護 SCMS-T 方式 (受信時)
総合	電源電圧 AC 100V、50/60Hz 消費電力 22W 待機消費電力 0.3W (ネットワークスタンバイ無効) 1.9W (ネットワークスタンバイ有効、 Wi-fi + Bluetooth) 1.8/1.9/1.7W (ネットワークスタンバイ有効： 有線ネットワーク / 無線ネットワーク / Bluetooth) 寸法 (幅 x 高さ x 奥行き) 950 x 72 x 131mm (テレビの前などに設置) 950 x 131 x 80mm (壁掛け設置、スペーサー有り) 質量 4.9kg

* この取扱説明書では、発行時点の最新仕様で説明をしております。最新版の取扱説明書につきましては、ヤマハウェブサイトからダウンロードしてご覧いただけますようお願いいたします。



本機はヤマハ独自のバーチャルサラウンド技術「AIR SURROUND XTREME」を搭載しています。
定位感に優れた高品位な 7.1ch サラウンド再生を本機 1 台のみで実現します。



MusicCast はヤマハ株式会社の登録商標です。



ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
Dolby、ドルビー、Dolby Audio、Pro Logic 及びダブル D 記号はドルビーラボラトリーズの商標です。



DTS の特許に関しては <http://patents.dts.com> をご覧ください。本製品は DTS Licensing Limited のライセンスに基づき製造しています。
DTS、そのシンボルマークおよび DTS とそのシンボルマークの組み合わせは、DTS 社の登録商標です。DTS Digital Surround は DTS, Inc. の商標です。© DTS, Inc. All Rights Reserved.



AAC ロゴマークはドルビーラボラトリーズの商標です。



DLNA™ および DLNA CERTIFIED™ はデジタルリビングネットワークアライアンスの登録商標です。無断使用は固く禁じられています。



Wi-Fi CERTIFIED ロゴは Wi-Fi Alliance の認証マークです。
Wi-Fi Protected Setup のマークは Wi-Fi Alliance の認証マークです。
Wi-Fi、Wi-Fi Alliance、Wi-Fi CERTIFIED、Wi-Fi Protected Setup、WPA、WPA2 は Wi-Fi Alliance の商標または登録商標です。



Bluetooth® のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標であり、ヤマハ株式会社はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。

Bluetooth について

- Bluetooth とは、無許可で使用可能な 2.4 GHz 帯の電波を利用して、対応する機器と無線で通信を行うことができる技術です。

Bluetooth 通信の取り扱いについて

- Bluetooth 対応機器が使用する 2.4 GHz 帯は、さまざまな機器が共有する周波数帯です。Bluetooth 対応機器は同じ周波数帯を使用する機器からの影響を最小限に抑えるための技術を採用していますが、他の機器の影響によって通信速度や通信距離が低下することや、通信が切断されることがあります。
- 通信機器間の距離や障害物、電波状況、機器の種類により、通信速度や通信距離は異なります。
- 本書はすべての Bluetooth 機能対応機器とのワイヤレス接続を保証するものではありません。



「Made for iPod」、「Made for iPhone」、「Made for iPad」とは、それぞれ iPod、iPhone、または iPad 専用に接続するように設計され、アップルが定める性能基準を満たしているとデベロッパーに寄って認定された電子アクセサリであることを示します。
アップルは、これらの機器操作または、安全規制基準に関する一切の責任を負いません。本機を iPod、iPhone または iPad と使用する場合、無線通信の性能に影響する場合があります。
Wireless Accessory Configuration は iOS 7 以降で動作します。

iTunes、Mac、AirPlay、iPad、iPhone、iPod、iPod touch は、米国およびその他の国々で登録されている Apple Inc. の商標です。
iPhone 商標は、アイホン株式会社のライセンスに基づき使用されています。

AppStore

App Store is a service mark of Apple Inc.

Android / Google Play

Android および Google Play は、Google Inc. の商標または登録商標です。



IP Simulcast Radio

「ラジオ」、「radiko」および radiko ロゴは株式会社 radiko の登録商標です。

Blue-ray

「ブルーレイ™」および「ブルーレイディスク™」はブルーレイディスクアソシエーションの商標です。

GPL/LGPL について

本製品は、GPL/LGPL ライセンスが適用されたオープンソースソフトウェアのコードを一部に使用しています。
お客様は GPL/LGPL ライセンスの条件に従い、これらのソフトウェアのソースコードを入手、改変、再配布する権利があります。
GPL/LGPL ライセンスの適用を受けるソフトウェアの概要、ソースコードの入手、GPL/LGPL ライセンスの内容につきましては、以下の弊社ウェブサイトをご覧ください。
<http://download.yamaha.com/sourcecodes/musiccast/>

Bluetooth プロトコルスタック (Blue SDK)

© 1999-2014 OpenSynergy GmbH

All rights reserved. All unpublished rights reserved.

Windows

Windows は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
Internet Explorer、Windows Media Audio、Windows Media Player は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標、または商標です。

本機の無線方式について

無線ネットワーク (Wi-Fi)

2.4 DS/OF 4



「2.4」 2.4 GHz 帯を使用する無線設備
「DS/OF」 変調方式は DS-SS および OFDM 方式
「4」 想定干渉距離が 40 m 以内
■ ■ ■ 全帯域を回避可能

(Bluetooth)

2.4 FH 1



「2.4」 2.4 GHz 帯を使用する無線設備
「FH」 変調方式は周波数ホッピング (FH-SS)
方式
「1」 想定干渉距離が 10 m 以内
■ ■ ■ 全帯域を回避可能

本製品は、電波法に基づく認証を受けた無線機器を内蔵しております。

高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 適合品

YAS-306 の製品ラベルは本機の底面に提示してあります。

無線に関するご注意

この製品の使用周波数帯では、電子レンジなどの産業・科学・医療用機器のほか、工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）および特定小電力無線局（免許を要しない無線局）並びにアマチュア無線局（免許を要する無線局）が運用されています。

1 この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局及び特定小電力無線局並びにアマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。

2 万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用場所を変えるか、又は機器の運用を停止（電波の発射を停止）してください。

安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。


ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様や他の方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お読みになったあとは、いつでも見られるところに大切に保管してください。

■ 記号表示について



この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。


「ご注意ください」という注意喚起を示します。

「～しないでください」という「禁止」を示します。

「必ず実行してください」という強制を示します。

■ 「警告」と「注意」について

以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。

	警告	この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。
	注意	この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

警告

電源 / 電源コード



必ず実行

電源プラグは、見える位置で、手が届く範囲のコンセントに接続する。
万一の場合、電源プラグを容易に引き抜くためです。



プラグを抜く

下記の場合には、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。
● 異常なおいや音がする。
● 煙が出る。
● 内部に水や異物が混入した。
● 異常に高温になる。
そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。



禁止

電源コードを傷つけない。
● 重いものを上に載せない。
● ステープルで止めない。
● 加工をしない。
● 熱器具には近づけない。
● 無理な力を加えない。
芯線がむき出しのまま使用すると、火災や感電の原因になります。



必ず実行

必ず AC100V (50/60Hz) の電源電圧で使用する。
それ以外の電源電圧で使用すると、火災や感電の原因になります。

電池



禁止

付属の電池を充電しない。
電池の破裂や液もれにより火災やけがの原因になります。



禁止

電池からもれ出た液には直接触れない。
液が目や口に入ったり、皮膚についたりした場合はすぐに水で洗い流し、医師に相談してください。



禁止

電池を加熱・分解したり、直射日光にさらしたり、火や水の中へ入れない。
破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

分解禁止



分解禁止

分解・改造は厳禁。
キャビネットは絶対に開けない。
火災や感電の原因になります。
修理・調整は販売店にご依頼ください。

設置



水ぬれ禁止

本機を下記の場所には設置しない。
● 浴室・台所・海岸・水辺
● 加湿器を過度にきかせた部屋
● 雨や雪、水がかかる場所
水の混入により、火災や感電の原因になります。



禁止

放熱のため本機を設置する際には：
● 布やテーブルクロスをかけない。
● じゅうたん・カーペットの上には設置しない。
● 仰向けや横倒しには設置しない。
● 通気性の悪い狭いところへは押し込まない。
(本機の周囲に左右 10cm、上 10cm、背面 10cm 以上のスペースを確保する。)
本機の内部に熱がこもり、火災の原因になります。



禁止

医療機器の近くで使用しない。

本機が発生させる電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

電波の使用が制限された区域では使わないでください。



必ず実行

心臓ペースメーカーや除細動器などの装着部分から15cm以上離して使用する。

本機が発生させる電波によりペースメーカーや除細動器の動作に影響を与えるおそれがあります。



必ず実行

十分な耐荷重強度のある、水平で安定した場所に設置する。

傾斜面や、水平でないところ、カーペット、畳などの安定しない面や変形する面などに設置しないでください。

使用上のご注意



禁止

放熱用の通風孔、パネルのすき間から金属や紙片など異物を入れない。

火災や感電の原因になります。



必ず実行

本機を落としたり、本機が破損した場合には、必ず販売店に点検や修理を依頼する。

そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。



接触禁止

雷が鳴りはじめたら、電源プラグには触れない。

感電の原因になります。



禁止

本機の上には、花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品・ロウソクなどを置かない。

水や異物の中に入ると、火災や感電の原因になります。接触面が経年変化を起こし、本機の外装を損傷する原因になります。

お手入れ



必ず実行

電源プラグのゴミやほこりは、定期的にとり除く。ほこりがたまったまま使用続けると、プラグがショートして火災や感電の原因になります。

注意

電源 / 電源コード



プラグを抜く

長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。

火災や感電の原因になります。



ぬれ手禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。

感電の原因になります。



禁止

電源プラグを抜くときは、電源コードをひっぱらない。

コードが傷つき、火災や感電の原因になります。



必ず実行

電源プラグは、コンセントに根元まで、確実に差し込む。

差し込みが不十分のまま使用すると感電したり、プラグにほこりが堆積して発熱や火災の原因になります。



禁止

電源プラグを差し込んだとき、ゆるみがあるコンセントは使用しない。

感電や発熱、および火災の原因になります。



必ず実行

本機を主電源から完全に切り離すには、電源プラグをコンセントから抜く。

本機の(電源) ボタンでシステムオフ状態にしても、本機はまだ通電状態にあります。

電池



必ず実行

電池は極性表示（プラス+とマイナス-）に従って、正しく入れる。

間違えると破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。



必ず実行

電池は幼児の手の届かない所に保管する。

口に入れたりすると危険です。



禁止

指定以外の電池は使用しない。また、種類の異なる電池や、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない。

破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。



禁止

電池と金属片をいっしょにポケットやバッグなどに入れて携帯、保管しない。

電池がショートし、破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。



必ず実行

長時間使用しない場合は、電池を電池ケースから抜いておく。

電池が消耗し、電池から液漏れが発生し、本機を損傷するおそれがあります。



必ず実行

使い切った電池は、すぐに電池ケースから取り外し、自治体の条例、または取り決めに従って廃棄する。

破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

設置



禁止

不安定な場所や振動する場所には設置しない。

本機が落下や転倒して、けがの原因になります。



禁止

おおむねや横倒しには設置しない。

故障やけがの原因となることがあります。



禁止

直射日光の当たる場所や、温度が異常に高くなる場所（暖房機のそばや車内など）には設置しない。本機の外装が変形したり内部回路に悪影響が生じて、火災の原因になります。



禁止

ほこりや湿気の多い場所に設置しない。ほこりの堆積によりショートして、火災や感電の原因になります。



必ず実行

他の電気製品とはできるだけ離して設置する。本機はデジタル信号を扱います。他の電気製品に障害を与えるおそれがあります。また、本機は非防磁のスピーカーを使用しています。他の機器や磁気記憶装置に障害を与えるおそれがあります。



必ず実行

ブラウン管を使用したディスプレイから離して設置する。画面に色むらが起きることがあります。



必ず実行

機器を接続する場合は、接続する機器の電源を切る。突然大きな音が出たり、感電したりすることがあります。



必ず実行

工事はお買上げ店、または専門の工事業者に依頼する。工事は技術と経験が必要です。不十分な取り付けは本機が落下して、けがをする原因になります。お客様による工事は一切行わないでください。

移動



プラグを抜く

移動をするときには電源スイッチを切り、すべての接続を外す。接続機器が落下や転倒して、けがの原因になります。コードが傷つき、火災や感電の原因になります。

使用上のご注意



禁止

音が歪んだ状態で長時間使用しない。スピーカーが発熱し、火災の原因になります。



禁止

環境温度が急激に変化する場所では使用しない。本機に結露が発生することがあります。正常に動作しないときには、電源を入れない状態でしばらく放置してください。



禁止

ポート（開口部）には手を入れない。感電やけがの原因となることがあります。



必ず実行

外部機器を接続する場合は、各機器の取扱説明書をよく読み、説明に従って接続する。説明に従って正しく取り扱わない場合、故障の原因になります。



禁止

業務用機器とは接続しない。デジタルオーディオインターフェース規格は、民生用と業務用では異なります。本機は民生用のデジタルオーディオインターフェースに接続する目的で設計されています。業務用のデジタルオーディオインターフェース機器との接続は、本機の故障の原因となるばかりでなく、スピーカーを傷める原因になります。



必ず実行

小さな部品は幼児の手の届かないところに保管する。飲み込んだりすると危険です。

リモコン



禁止

水やお茶などの液体をこぼさない。電池がショートし、破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。感電の原因になります。



禁止

落としたり、強い衝撃を与えたりしない。故障の原因になります。



禁止

下記のような場所に置かない。
● 風呂場の近くなど、湿度が高いところ
● 暖房器具やストーブの近くなど、温度が高いところ。
● 極端に寒いところ
● ほこりの多いところ
火災や故障の原因になります。

お手入れ



必ず実行

お手入れをするときには、必ず電源プラグを抜く。感電の原因になります。



禁止

薬物厳禁
ベンジン・シンナー・合成洗剤等で外装をふかない。また接点復活剤を使用しない。外装が傷んだり、部品が溶解することがあります。

音を楽しむエチケット

- ・ 楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を十分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。
- ・ 適当な音量を心がけ、窓を閉めるなどして使用しましょう。
- ・ 音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

お問い合わせ窓口

ヤマハAV製品の機能や取り扱いに関するお問い合わせ

■お客様コミュニケーションセンター オーディオ・ビジュアル機器ご相談窓口

ナビダイヤル (全国共通)  0570-011-808

固定電話は、全国市内通話料金でご利用いただけます。
通話料金は音声案内で確認できます。

上記の番号でつながらない場合は、以下の番号におかけください。
TEL (053) 460-3409

受付：月～金曜日 10:00～17:00
(土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く)

■ホームシアター・オーディオサポートメニュー

お客様からお寄せいただくよくあるお問い合わせをまとめました。
ぜひご覧ください。

<http://jp.yamaha.com/support/audio-visual/>

ヤマハAV製品の修理、サービスパーツに関するお問い合わせ

■ヤマハ修理ご相談センター

ナビダイヤル (全国共通)  0570-012-808

固定電話は、全国市内通話料金でご利用いただけます。
通話料金は音声案内で確認できます。

上記の番号でつながらない場合は、以下の番号におかけください。
TEL (053) 460-4830

受付：月～金曜日 10:00～17:00
(土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く)

FAXでのお問い合わせ

北海道、東北、関東、甲信越、東海地域にお住まいのお客様
(03) 5762-2125

北陸、近畿、中国、四国、九州、沖縄地域にお住まいのお客様
(06) 6649-9340

修理品お持ち込み窓口

受付：月～金曜日 10:00～17:00
(土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く)

*お電話は、ヤマハ修理ご相談センターでお受けします。

東日本サービスセンター

〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1-1
京浜トラクターミナル内14号棟A-5F
FAX (03) 5762-2125

西日本サービスセンター

〒556-0011 大阪府浪速区難波中1丁目13-17
ナンバ辻本ニッセイビル7F
FAX (06) 6649-9340

*名称、住所、電話番号、URLなどに変更になる場合があります。

保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターにご連絡ください。

●保証期間

製品に添付されている保証書をご覧ください。

●保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

●保証期間が過ぎているとき

修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

●修理料金の仕組み

技術料 故障した製品を正常に修復するための料金です。
技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、
一般管理費等が含まれています。

部品代 修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する
部材等を含む場合もあります。

出張料 製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。
別途、駐車料金をいただく場合があります。

●補修用性能部品の最低保有期間

補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後8年です。
補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な
部品です。

●製品の状態は詳しく

サービスをご依頼されるときは製品の状態をできるだけ詳しくお
知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知
らせください。

※品番、製造番号は製品の背面もしくは底面に表示してあります。

●スピーカーの修理

スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電
気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますの
で、エージングの差による音色の違いが出る場合があります。

●摩耗部品の交換について

本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用
されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時
間等によって大きく異なります。

本機を未永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部
品を交換されることをおすすめします。
摩耗部品の交換は必ずお買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談セ
ンターへご相談ください。

摩耗部品の一例

ボリウムコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、
ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

※このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載し
ております。

永年ご使用の製品の点検を！



愛情点検

こんな症状はありませんか？

- 電源コード・プラグが異常に熱い。
- コゲくさい臭いがする。
- 電源コードに深いキズが変形がある。
- 製品に触れるとビリビリと電気を感じる。
- 電源を入れても正常に作動しない。
- その他の異常・故障がある。



すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、
必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

ヤマハ株式会社

〒430-8650 浜松市中区中沢町10-1

Manual Development Group
© 2016 Yamaha Corporation

2016 年 6 月発行 KS-A0
Printed in Indonesia

ZV20110